CAMEDIA

OLYMPUS®

デジタルカメラ

AZ-1

取扱説明書

●ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
●取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

オリンパスデジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます

製品をご使用になる前に、カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番など、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による、万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、付属のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

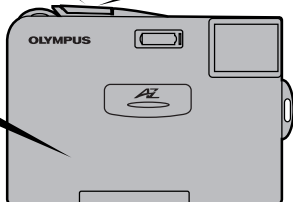
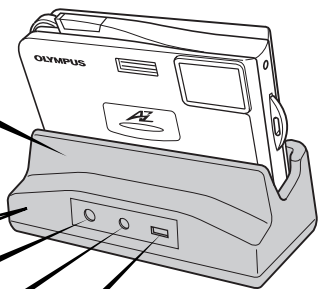
カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

このカメラでできること

20種類以上ある撮影シーンから選んで
シャッターを切るだけ！
あとはカメラにおまかせ
さまざまな撮影シーンを手軽に
楽しめます☞P.32

連続写真（☞P.59）や
音声付きムービー(動画)（☞P.34）
も撮影できます

撮影した画像は
xDピクチャーカードに
記録されます

xDピクチャーカード内に
アルバムがつくれます
☞P.102

クレードルを使って....

ACアダプタで充電が
できます ☞P.25

テレビで再生できます ☞P.85

パソコンやプリンタに
つなげると....
画像を転送できます ☞P.169

PictBridge対応プリンタなら、
パソコンを使わずにプリント
できます ☞P.144

本書の使い方

本書では、使いたい機能・知りたい機能をすぐに検索できるように、もくじ、索引、メニュー一覧のページが用意されています。

もくじから探す☞ P.7

本書の全タイトルが並べられています。カメラを使い始める前に読む章や、撮影の基本操作を覚えたいときに読む章などの目的別に構成されています。

こんなときに

撮影した画像を再生したい

↓

「5 再生する」の章から「静止画を見る. . . . .70」のページを検索します。

もくじ

索引から探す☞ P.208

機能名や各部の名称など、本書で使っている用語が50音順に並べられています。本書を読んでいて、分からない言葉や知りたい言葉がでてきたときに、索引からその用語を使っているページを探すことができます。

こんなときに

「測光」について知りたい

↓

「測光. . . . .62」のページを検索します。

メニュー一覧から探す☞ P.204

カメラのメニュー名がツリー構造で記載されています。メニューを操作しているときに、知りたいメニュー名がでてきたときはメニュー一覧からその機能の説明ページを探すことができます。

こんなときに

メニュー画面にある[ホワイトバランス]ではどんな設定をするの？

↓

メニューの操作順を追って「ホワイトバランス　　P.66」のページを検索します。

メニュー一覧

●撮影メニュー（モード）

メニュー項目	選択肢	参照ページ
シーン選択	Pオート、シーン	P. 40
リセット	実行、中止	P. 69
フラッシュ*1	オート発光、赤目軽減、強制発光、発光禁止	P. 56
セルフタイマー*1	オン、オフ	P. 60
画質モード	スーパーハイ*1、ハイ*1、PCモニタ、Eメール	P. 64
ホワイトバランス*2	オート、晴天、曇天、電球、蛍光灯	P. 66
露出補正*2	+2.0〜0.0〜−2.0	P. 63
測光*2	オート、スポット	P. 62
連写*1	オン、オフ	P. 59

· 本書の操作説明ページの読み方は、「操作説明ページの見方」(P.6)をご覧ください。

取扱説明書の構成

操作説明ページの見方

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

本書の表記について

!	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

もくじ

3 撮りたいものに合わせて設定する 40

4 撮影に便利な機能を使う 53

5 再生する 70

6 気に入った画像をアルバムにまとめる 102

7 カメラをより使いやすくする 112

8 プリント予約をしてお店でプリントする 130

9 PictBridge対応プリンタでプリントする（ダイレクトプリント） 144

10 パソコンに取り込む 169

11 付属品について 188

12 その他 190

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。**これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない。**目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってケーブル類やストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池やxDピクチャーカードなどの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **通電中の本体やACアダプタ、クレードル部に長時間触れない。**充電中は、本体やクレードル部の温度が高くなります。また、専用のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない。**火災や感電の原因となることがあります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。
- **内部に水や異物を入れない。**万一、水に落としたり、内部に水が入ったときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

● **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）

● **濡れた手で操作しない。**感電の危険があります。また電源プラグの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

● **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。

● **温度の高い所へ放置しない。**部品が劣化したり、火災の原因となります。また、ACアダプタやクレードル部を布などで覆った状態で使用しないでください。熱が発生し、火災の原因になります。

● **専用のACアダプタ以外は使用しない。**製品が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。このために生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。

● **電源プラグを傷つけない。**電源プラグを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ずプラグを持って、抜き差しを行ってください。以下の場合はただちに使用を中止し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- 電源プラグに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

● 動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、以下のような場所で長時間使用したり保管しないでください。
- 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
- 砂、ほこり、ちりの多い場所
- 火気のある場所
- 水に濡れやすい場所
- 激しい振動のある場所

● カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

● レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。

● 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露する場合があります。予めビニール袋などに入れて密封し、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。

● 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。
使用前には動作点検をされることをおすすめします。

● 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。

● 電気接点部には手を触れないでください。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- 電池は、専用の当社製リチウムイオン電池をご使用ください。電池は指定の方法以外で充電しないでください。火災やけがのおそれがあります。ご使用になる際は、電池の取扱説明をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用･放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散の原因になり危険です。
- 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で十分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池を口に入れないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。また、濡れた手で電池を触ったり持たないでください。
- 所定の充電時間を超えても電池の充電が完了しない場合は、充電を中止してください。
- リチウムイオン電池の外装にキズや破損のあるものは使用しないでください。
- 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製リチウムイオン電池は、当社デジタルカメラ専用です。使用できる機種については、カメラの取扱説明書でご確認ください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- カメラを長時間連続使用した後は、電池が発熱しています。すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意することをおすすめします。
- **ご使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には＋－端子をテープで絶縁してから、最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。**

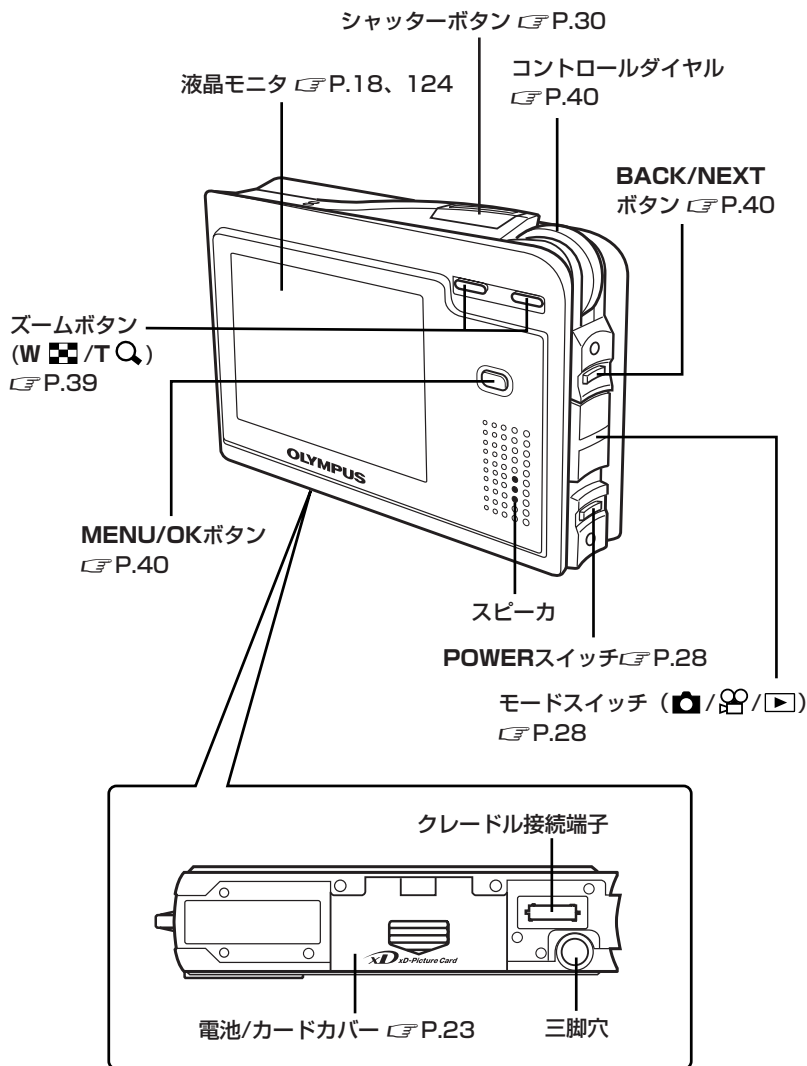
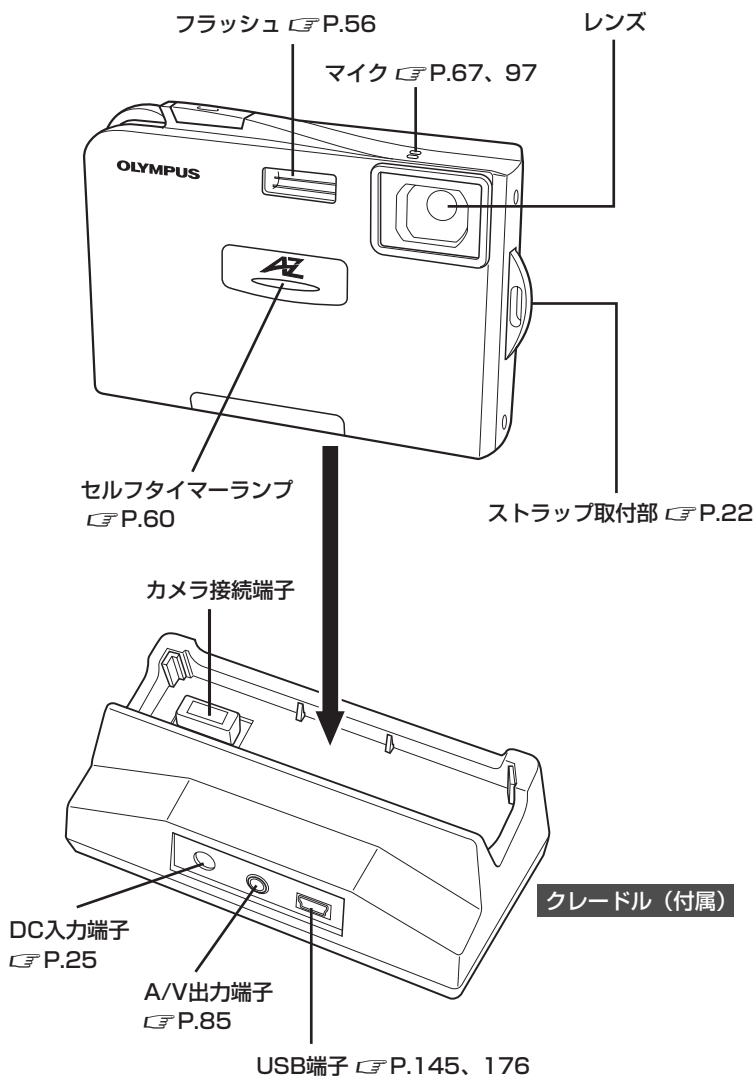
液晶モニタについて

本製品は液晶モニタを使用しています。これらは液晶モニタに関するご注意です。

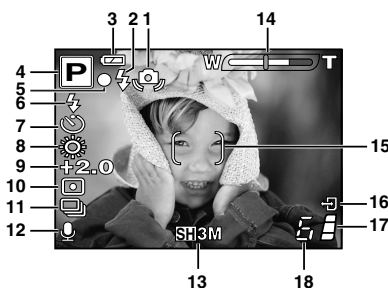
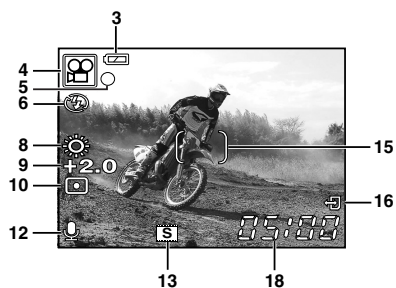
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

各部の名称

シャッターボタン ☞P.30
液晶モニタ ☞P.18、124
コントロールダイヤル
☞P.40
BACK/NEXT
ボタン ☞P.40
ズームボタン
(W ▦ /T 🔍)
☞P.39
OLYMPUS
MENU/OKボタン
☞P.40
スピーカ
POWERスイッチ☞P.28
モードスイッチ（📷/🎥/▶）
☞P.28
クレードル接続端子
xD xD-Picture Card
電池/カードカバー ☞P.23
三脚穴

フラッシュ ☞P.56
レンズ
マイク ☞P.67、97
OLYMPUS
セルフタイマーランプ
☞P.60
ストラップ取付部 ☞P.22
カメラ接続端子
クレードル（付属）
DC入力端子
☞P.25
A/V出力端子
☞P.85
USB端子 ☞P.145、176

液晶モニタの表示

撮影モード

（下のイラストは表示例です。詳しくは各参照ページをご覧ください。）

静止画撮影時　　　ムービー撮影時

	項目	表示例	参照ページ
1	手ぶれ警告		P.57
2	フラッシュ発光予告／ フラッシュ充電	（点灯） （点滅）	P.57
3	電池残量	、	P.21
4	撮影モード	P、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、1 2、、	P.40
5	緑ランプ	○	P.30
6	フラッシュモード	、、	P.56
7	セルフタイマー		P.60
8	ホワイトバランス	、、、	P.66
9	露出補正	−2.0 〜 +2.0	P.63
10	測光モード		P.62
11	連写モード		P.59
12	録音		P.67
13	画質モード	静止画：SH 3M、H 2M、PC 1M、 VGA ムービー： S 、 L	P.64

	項目	表示例	参照ページ
14	ズーム	W T	P.39、58
15	AF ターゲットマーク	[ ]	P.29
16	カードアクセス		P.30
17	メモリゲージ	、 、 、	P.21
18	撮影可能枚数（静止画） 撮影可能時間（ムービー）	6 05：00	P.65 P.34

再生モード

（下のイラストは表示例です。詳しくは各参照ページをご覧ください。）

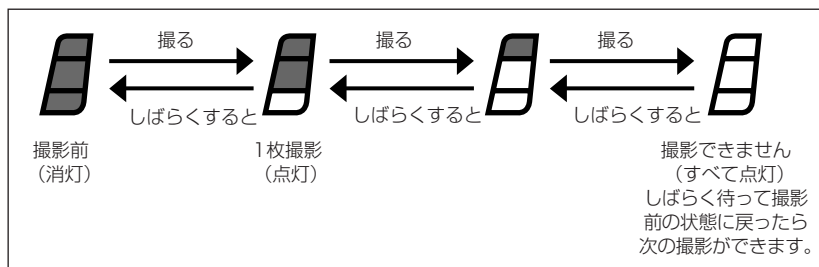
液晶モニタに表示される内容を選択できます。下の画面は［情報表示］を［オン］にしたときの画面です。

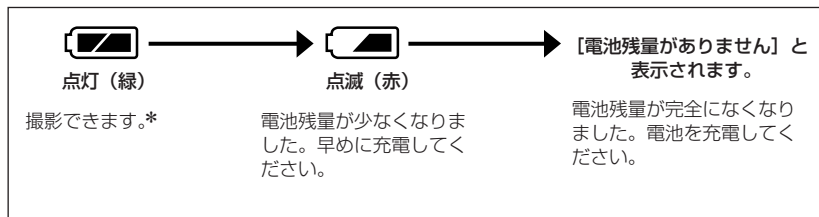
☞「画像の詳細情報を表示する［情報表示］」（P. 116）

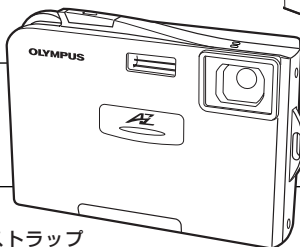
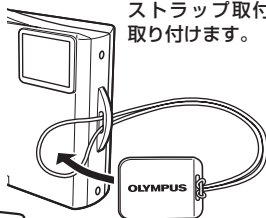
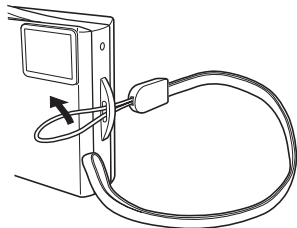
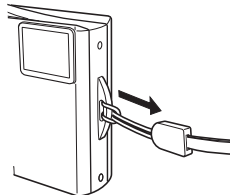
静止画再生時　　　　ムービー再生時

	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	、、	P.21、25
2	アルバム	10 (アルバム画像のみを表示中) (10) (全画像を表示中)	P.106 P.116
3	ファイル番号	FILE 100-0010	P.130
4	プリント予約・プリント枚数	X10	P.137
5	ムービー		P.86
6	録音		P.67
7	プロテクト		P.90
8	画質	静止画：SH 3M、H 2M、PC 1M、VGA ムービー：S、L	P.64
9	画像サイズ	2048x1536、1600x1200など	P.65
10	ホワイトバランス	、、、	P.66
11	露出補正	−2.0 ～ +2.0	P.63
12	日時	'04.05.17 15:30	P.126
13	コマ番号	10	P.108、130
14	操作ガイド 再生時間／記録時間（ムービー）	10コマ送り NEXT 00：00/56：34	P.70 P.86

メモリゲージについて

静止画撮影した画像をカードに記録しているときには、メモリゲージが点灯します。
メモリゲージの表示は、撮影状態によって以下のように変化します。
メモリゲージがすべて点灯したときは、しばらく待って消えてから撮影を再開してください。

電池マークについて

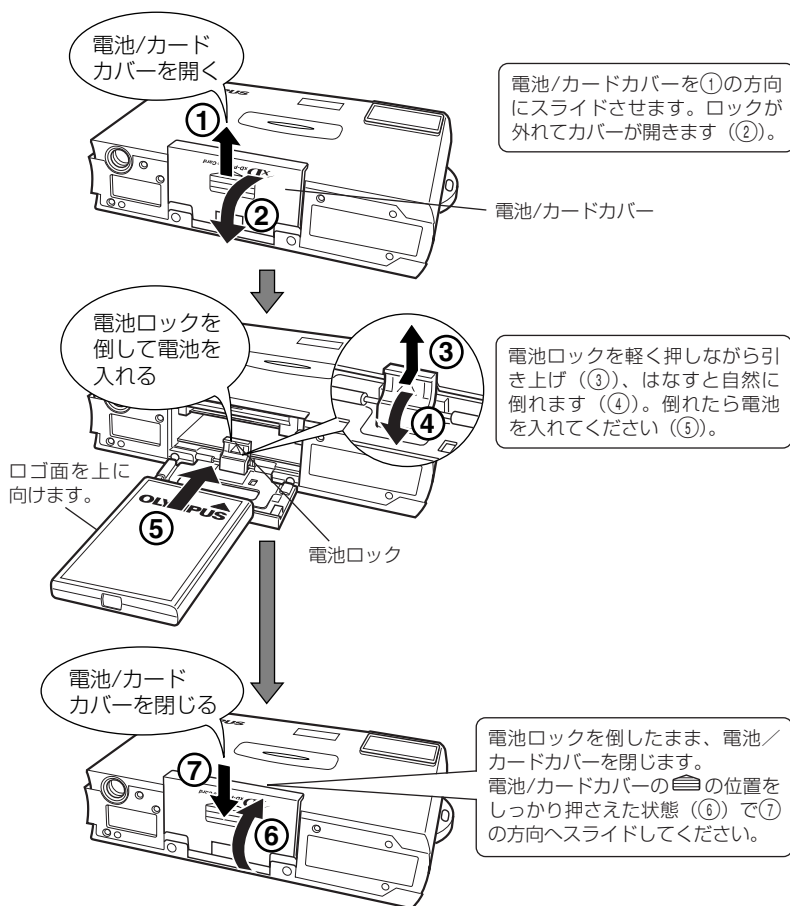
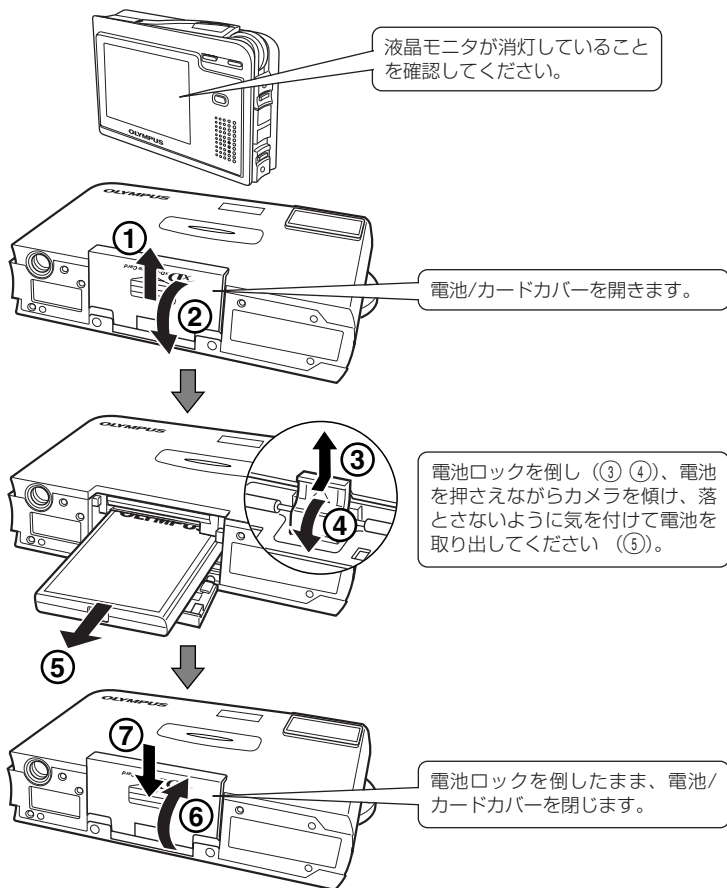
カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、液晶モニタの電池残量表示が以下のように変化します。

＊ デジタルカメラは、動作状態により消費電力が大きく変わります。カメラの動作状態によっては、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。その際は電池を充電してください。

レンズキャップ・ストラップを取り付ける

ストラップについての注意

- ストラップを取り付けた後、必要以上に引っぱらないでください。ストラップが切れる場合があります。
- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 手順にしたがってストラップを正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる

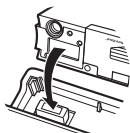
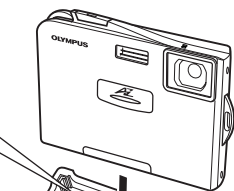
電池は専用のリチウムイオン電池（LI-20B）1個を使用します。それ以外の電池は使用できませんのでご注意ください。

- 長時間使用する場合は、予備電池（別売）のご用意をおすすめします。

電池を取り出す

電池についての注意

- 電池を外して約1日放置すると、日付と時刻は初期状態に戻ります。電池交換後は、必ず日時設定をご確認ください。☞P.126
- デジタルカメラは動作状態により、消費電力が大きく変わります。消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告（☞P.21）が表示されずにカメラの電源が切れる場合があります。

電池を充電する

電池は専用のリチウムイオン電池（LI-20B）1個を使用します。それ以外の電池は使用できませんのでご注意ください。

お買い上げの際、電池は十分に充電されていません。ご使用の前に付属のクレードルとACアダプタを使って充電を行ってください。
充電は、カメラに電池を入れた状態で行います。

パソコンへの画像のダウンロード、プリンタへの出力など、時間がかかる作業をするときは、ACアダプタのご使用をおすすめします。☞「付属品について―ACアダプタ」（P.188）

海外でのご使用について

ACアダプタを海外でご使用の場合は、その地域の電源コンセントの形状に合った変換プラグが別途必要になります。変換プラグについては、旅行代理店などにご相談ください。

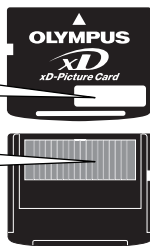
❗ 電池の充電についての注意

- 別売の充電器（LI-20C）も使用できます。専用の充電器以外は使用しないでください。
- 「安全にお使いいただくために」（☞P.12）および「付属品について― ACアダプタ」(☞P.188）を必ずお読みください。

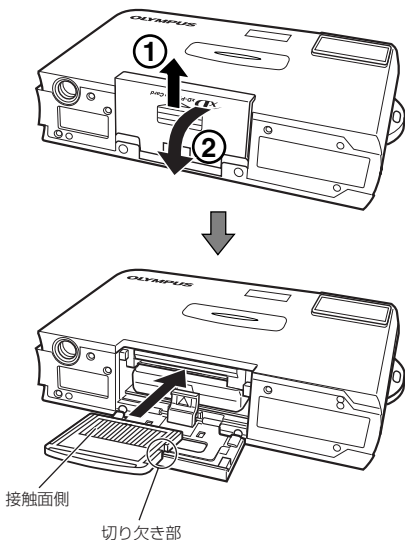
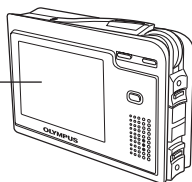
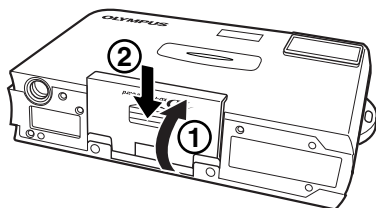
カードを入れる

本書では、xDピクチャーカードを「カード」と呼びます。このカメラで撮影した画像は、カードに記録されます。

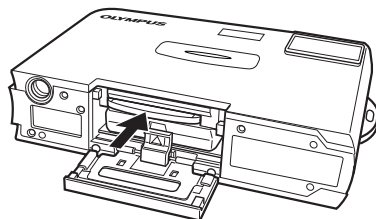
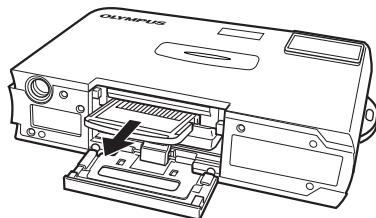
インデックスエリア
カードに保存されている内容がわかるように、ここに記入できます。

接触面（コンタクトエリア）
カメラの電気接点が接触する部分です。

使用できるカード
• xDピクチャーカード（16～512MB）

1 液晶モニタが消灯していることを確認してください。

2 図のようにカードの向きを確かめてカードを入れます。

• カードが斜めに入らないようにまっすぐに差し込みます。
• カードを奥まで差し込むと、カチッという音がしてとまります。
• カードの向きを間違えたり、斜めに入れた場合、接触面が破壊されたり、カードがカメラから抜けなくなることがあります。
• カードが奥まで挿入されていないと、カードに記録できないことがあります。

カードを取り出す

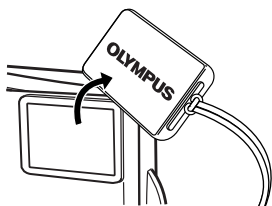
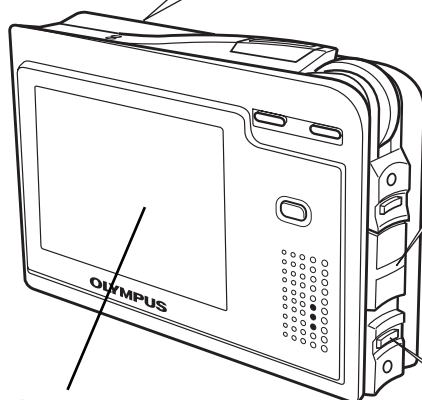
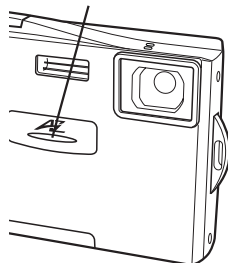
1 液晶モニタが消灯していることを確認してください。

2 カードを一度奥に向かって押しこんで、そのままゆっくり戻します。

カードを取り出す際、カードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくようにすると、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

3 カードをつまんで取り出します。

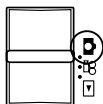
❗ カードについての注意

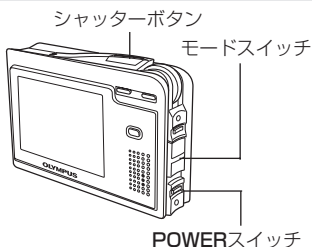
「付属品について ー カード」(☞P.189) を必ずお読みください。

電源を入れる／切る

電源を入れたまま約10分間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐために自動的に電源が切れます。ACアダプタを使用しているときは、電源は切れません。

これで準備ができました。まず撮影してみましょう。☞ P.29

静止画を撮る

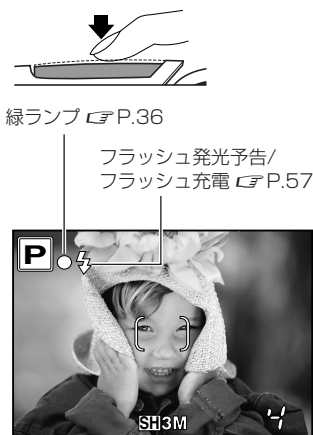
1 モードスイッチを 📷 にします。

2 カメラの電源を入れます。

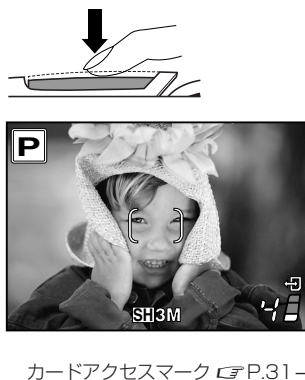
3 液晶モニタを見ながらAFターゲットマークに被写体を合わせ構図を決めます。

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。縦位置で撮影するときは、フラッシュがレンズより上になるようにします。

レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

4 ピントを合わせます。
シャッターボタンを軽く押します（半押し）。

緑ランプ ☞P.36

フラッシュ発光予告/
フラッシュ充電 ☞P.57

- ピントと露出が固定され、緑ランプが点灯します。
- フラッシュが発光するときは、ϟ（フラッシュ発光予告）が点灯します。

5 撮影します。
半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。

カードアクセスマーク ☞P.31

- 撮影され、シャッター音がします。
- ⊕（カードアクセス）マークが点滅し、カード記録が始まります。
- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、ぶれる原因になります。

撮影した画像をすぐに確認したいときは
☞「撮影後すぐに画像を確認する［レックビュー］」（P.115）

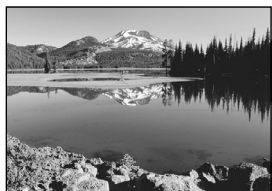
シャッターボタンを半押ししたときに緑ランプが点滅していたら

→ 被写体までの距離が近すぎます。50cm以上離れて撮影するか、またはマクロ撮影（☞P.46)、スーパーマクロ撮影（☞P.46）をしてください。
→ ピントが合っていません。被写体の条件によってはピントが合わないことがあります。☞「ピントが合わないときは」(P.36)

撮影についての注意

- 10分間何も操作をしないと電源が切れます。POWERスイッチで電源を入れなおしてください。
- （カードアクセス）マークの点滅中は、絶対に電池やカード、ACアダプタを抜かないでください。撮影した画像が保存されないだけでなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。
- 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつくことがあります。
- 明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニタの画像にスミア（白い帯状の縞）が見られる場合がありますが、撮影した画像への影響はありません。

シーンに合わせた撮影をする

このカメラではいろいろなシーンに合わせた撮影が簡単にできます。

風景 ☞P.43

風景＆人物 ☞P.43

夜景 ☞P.43

夜景＆人物 ☞P.44

パーティショット ☞P.44

打ち上げ花火 ☞P.44

夕日 ☞P.45

ポートレート ☞P.45

セルフポートレート ☞P.45

美肌 ☞P.46

マクロ ☞P.46

スーパーマクロ ☞P.46

料理 ☞P.47

Motion JPEG Image & Sound Recording*
With the provided 8MB SmartMedia, Motion JPEG image & sound recording up to 15 seconds in HQ mode (320x240 pixels) or 62 seconds in SQ mode (160x120 pixels) is possible.
* Sound is recorded in Wave format.

Built-In Microphone
With the built-in microphone, you can record up to 4 seconds of sound per still image.

Picture Effects
Black & White, Sepia, White Board, or Black Board can be selected, giving you greater control over image style. With White Board and Black Board modes, pictures of letters can be taken extra-clearly.

ドキュメント ☞P.47

マナーショット ☞P.47

スポーツ ☞P.48

ビーチ&スノー ☞P.48

一人旅 ☞P.48

キャンドル ☞P.49

寝顔 ☞P.49

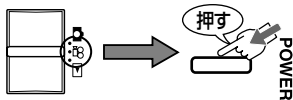
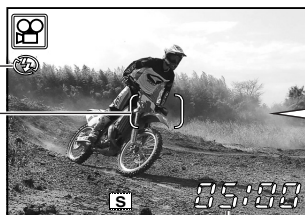
ショーウィンドウ ☞P.49

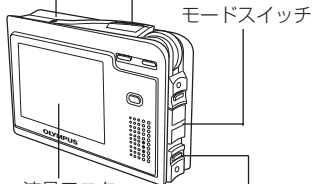
合成ツーショット ☞P.50

パノラマ ☞P.51

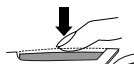
ムービー(動画)を撮る

撮影と同時に音声も記録されます。

1 **モードでカメラの電源を入れます。**
P.28

2 **液晶モニタを見ながら構図を決めます。**

3 **撮影を始めます。**
シャッターボタンを押し込みます。

撮影中は赤で表示されます

- ズームボタンで被写体を拡大できます。
  「拡大して撮る」(P.39)
- 撮影可能時間は、カード空き容量、画質により変わります。「画質モードを選択する」(P.64)

撮影中は、ピントと光学ズームが固定されますが、デジタルズームは使えます。「デジタルズーム」(P.58)

4 撮影を終了します。
もう一度シャッターボタンを押します。

カード記録中は ⏎ が点滅します。

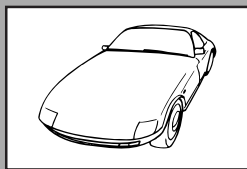
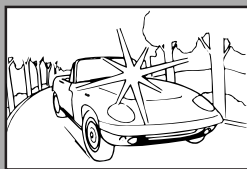
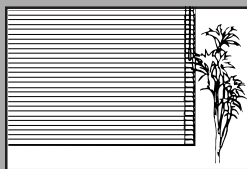
ムービー撮影についての注意

- 撮影可能時間が00：00になると、自動的に撮影を終了します。
- 次のようなとき、音声がきれいに録音されないことがあります。
  - 撮影中、録音マイクを指でふさぐ。
  - 録音対象がカメラから1m以上はなれている。

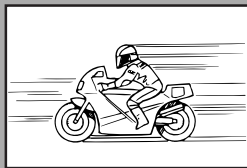
ピントが合わないときは

オートフォーカス（AF）が苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

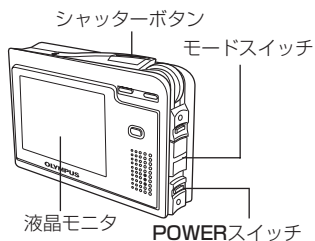
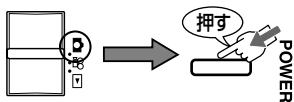
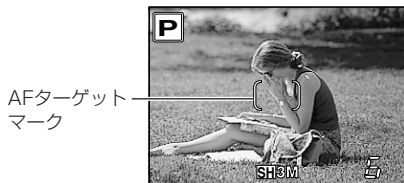
ピントを合わせたいものが中央にない

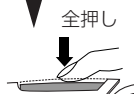
いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてピントを合わせた後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

「ピントを合わせてから構図をきめる（フォーカスロック）」☞P.37

ピントを合わせてから構図を決める（フォーカスロック）

ピントを合わせたいものがAFターゲットマークから外れる（中央にない）ときには、まず好きな場所でピントを固定してから撮影することができます。これをフォーカスロックといいます。

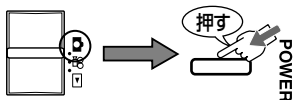
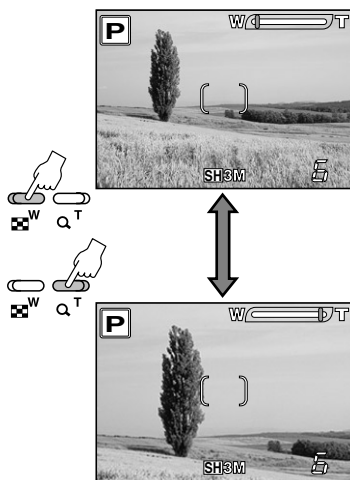
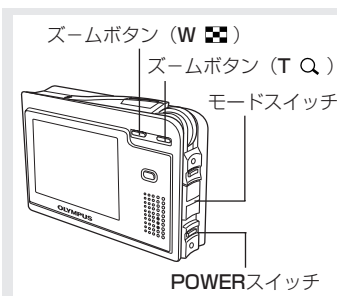
1 📷 モードでカメラの電源を入れます。

2 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。

3 **図にしたがって撮影をします。**

シャッターボタンを、緑ランプが点灯するまで半押しします。

☞「シャッターボタンを半押ししたときに緑ランプが点滅していたら」(P.31)

フォーカスロックでもうまくいかなかったら
☞「ピント合わせの範囲を変える［AF方式］」(P.61)

拡大して撮る

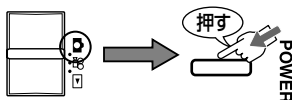
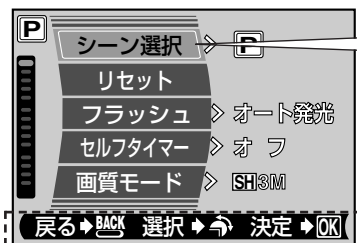
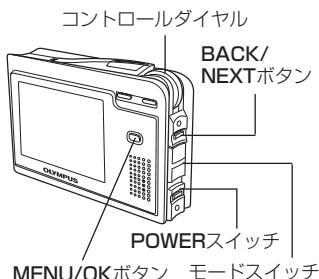
光学ズーム倍率3.0倍（35mmフィルムカメラ換算：38mm〜114mm）の広角から望遠撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると、最大約8倍の望遠撮影が可能です。☞「デジタルズーム」(P.58)

1 モードでカメラの電源を入れます。

2 ズームボタンを押します。

3 撮影します。

ズームについての注意

望遠になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。

3 撮りたいものに合わせて設定する

このカメラでは、基本の静止画撮影モード（Pオート）の他に、20種類以上の撮影シーンを選べます。色合いや明るさなどの設定は、撮影シーンごとにあらかじめ決められていますので、シャッターボタンを押すだけの手軽な撮影ができます。

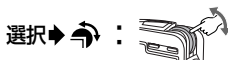
1 モードでカメラの電源を入れます。

2 メニューを表示します。

選択した項目が白の枠で表示されます。

操作ガイドが表示されます。

戻る BACK ： **押す**
前の画面に戻ります。（ここではメニューから抜けます）

選択 ： **まわして選ぶ**
選択肢を選びます。

決定 OK ： **押して決定**
設定の変更を確定します。

3 撮りたいものに合わせて設定する

3 ［シーン選択］が選択されているのを確認し、決定します。

4 ［シーン］を選択します。

基本の静止画撮影モード(Pオート)にもどる場合は、ここで［Pオート］を選びます。

［Pオート］撮影
カメラが最適と判断した条件で撮影します。撮影シーンにとらわれない基本静止画撮影モードです。

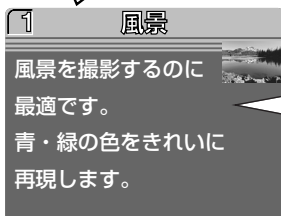
5 撮影シーンを選択します。

選択している モード

選択している撮影シーンのサンプル画像が表示されます。

MENU/OK

1 風景

風景を撮影するのに最適です。青・緑の色をきれいに再現します。

サンプル画像の後、どのような撮影に適しているかが表示されます。

選択した撮影シーンのマークが表示されます。

メニューが消えて、通常の撮影画面に戻ります。

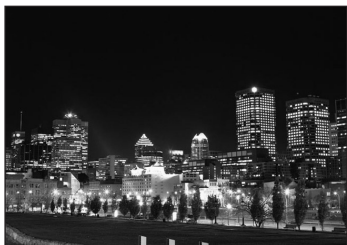
カメラの設定を変えて撮影するには
☞「カメラをより使いやすくする」(P.112)

風　景

風景を撮るのに最適です。

風景＆人物

人物と風景をいっしょに撮るのに最適です。

夜　景

夜景を撮るのに最適です。
街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので、光っている点だけの画像になってしまいます。夜景モードでは、街の様子も写し出します。

• 夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

夜景&人物

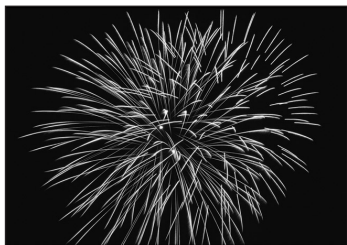
夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。

• 夜景&人物撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。
• フラッシュは赤目軽減モードで発光します。☞「フラッシュ」(P.56)

パーティショット

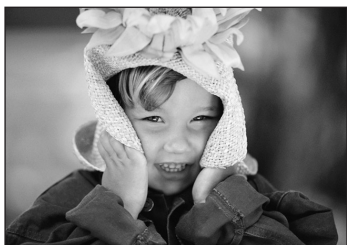
屋内で人物と背景をいっしょに撮るのに最適です。背景もきれいに再現されます。

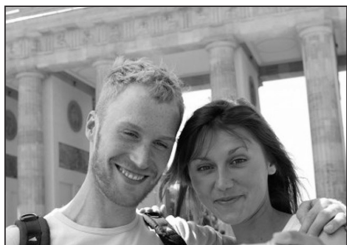
• スーパーハイおよびハイモードでの撮影はできません。☞「画質モードを選択する」(P.64)

打ち上げ花火

夜空に打ち上げられた花火を撮るのに最適です。

夕　日

夕景を撮るのに最適です。赤や黄色を鮮やかに再現します。
• フラッシュは使えません。

ポートレート

人物撮影をするのに最適です。肌の質感の再現を重視しています。

セルフポートレート

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。
• ズームは広角の位置で固定され、変更できません。

美 肌

人物を明るく撮るのに最適です。肌の色を明るくなめらかに再現します。

マクロ

被写体との距離が30cm〜50cmのときに使います。

- フラッシュ使用時は影が目立ったり、適正な明るさにならないことがあります。

スーパーマクロ

約8cmの距離まで被写体に近付いて、撮影できます。

- フラッシュは使えません。
- ズームは使えません。

料　理

料理を撮るのに最適です。料理の色合いをはっきりと再現します。

• 赤目軽減モードは使えません。

ドキュメント

Motion JPEG Image & Sound Recording*

With the provided 8MB SmartMedia, Motion JPEG image & sound recording up to 15 seconds in HQ mode (320x240 pixels) or 62 seconds in SQ mode (160x120 pixels) is possible.

* Sound is recorded in Wave format.

Built-In Microphone

With the built-in microphone, you can record up to 4 seconds of sound per still image.

Picture Effects

Black & White, Sepia, White Board, or Black Board can be selected, giving you greater control over image style. With White Board and Black Board modes, pictures of letters can be taken extra-clearly.

書類や時刻表を撮るのに最適です。文字と背景の明暗をはっきりと再現します。

• フラッシュは使えません。

マナーショット

フラッシュや操作音を消して撮ります。美術館など、フラッシュや音が気になる場所での撮影に最適です。

• スーパーハイおよびハイモードでの撮影はできません。☞「画質モードを選択する」(P.64)

スポーツ

スポーツなどの動きのある被写体を撮るときに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮れるので、人物の表情など、被写体の様子も逃しません。

ビーチ＆スノー

晴天の海や雪山で撮影するのに最適です。空・緑・人物をきれいに再現します。

一人旅

旅先での撮影に最適です。セルフタイマーを使って自分と風景を撮影します。

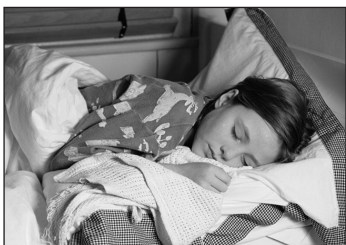
• [AF方式] は [スポット] に設定できません。

☞「ピント合わせの範囲を変える［AF方式]」(P.61)

キャンドル

キャンドルライトを活かした画像を撮るのに最適です。温かみのある色が再現されます。

- フラッシュは使えません。
- スーパーハイおよびハイモードでの撮影はできません。☞「画質モードを選択する」(P.64)

寝　顔

薄暗い場所でフラッシュを使わずに撮ります。

- フラッシュは使えません。
- スーパーハイおよびハイモードでの撮影はできません。☞「画質モードを選択する」(P.64)

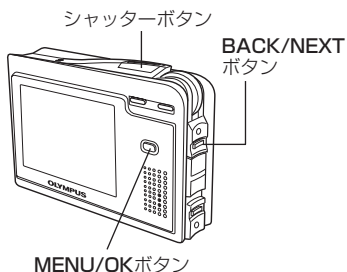
ショーウィンドウ

ガラス越しの被写体に、ピントを合わせて撮るのに最適です。

合成ツーショット

1枚目の撮影画像　　2枚目の撮影画像

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。

- 合成ツーショット撮影では、連写はできません。
- セルフタイマー撮影および録音はできません。

1 **合成ツーショットモードを選択します。** ☞P.40

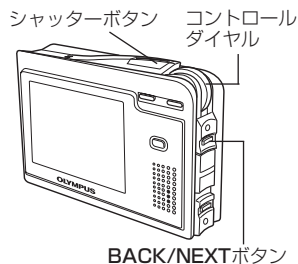
2 **1枚目を撮影します。**

- 撮影した画像は、合成時には左側に配置されます。
- やり直したいときは、BACK/NEXTボタンを押します。

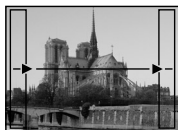
3 **2枚目を撮影します。**

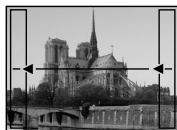
- 合成された1枚の画像としてカードに記録されます。
- 撮影した画像は、合成時には右側に配置されます。
- 合成ツーショットを解除するには、MENU/OKボタンを押し、メニューで他の撮影シーンを選択します。☞P.40

パノラマ

当社製のxDピクチャーカードを使うと、パノラマ撮影が楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

1 **パノラマモードを選択します。**
☞P.40

2 **コントロールダイヤルを回して、画像をつなぐ方向を選択します。**

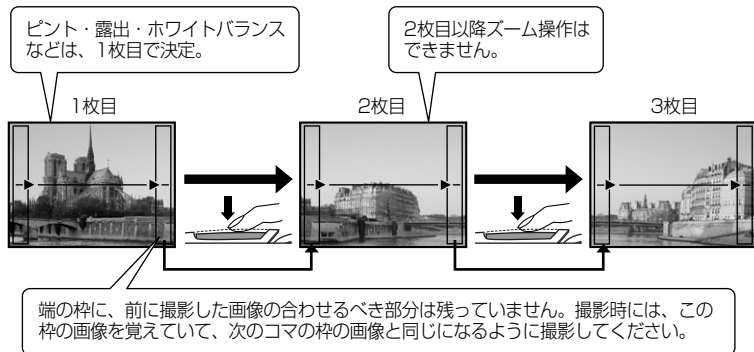
- 選んだ方向の枠と矢印が表示されます。

右方向

下方向

左方向

上方向

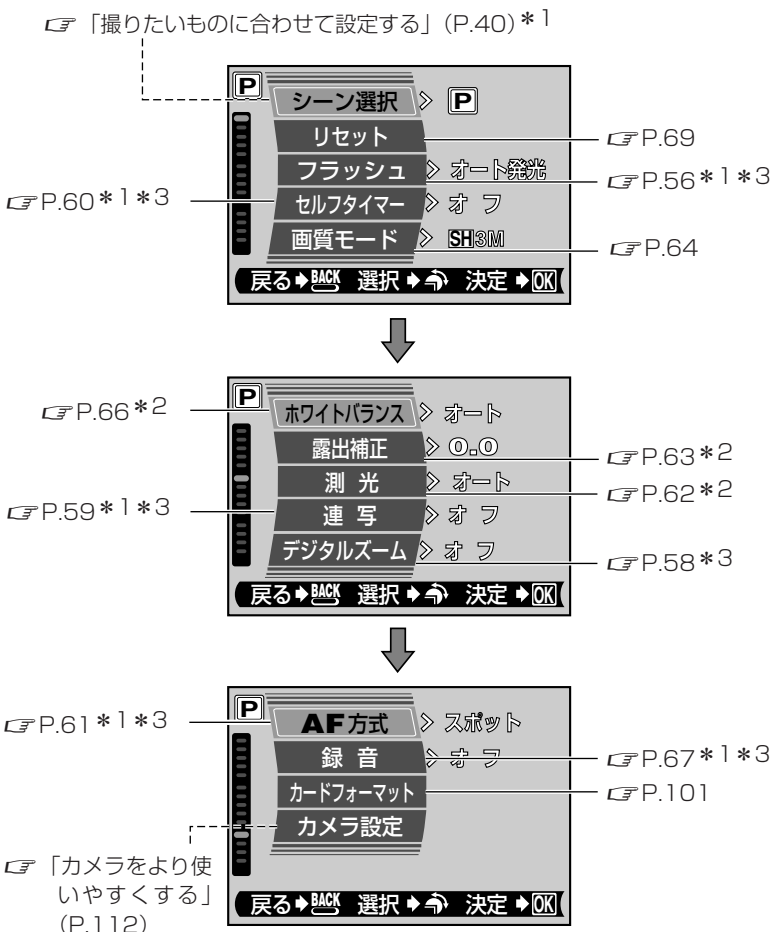
3 **被写体の端が重なるように撮影します。**

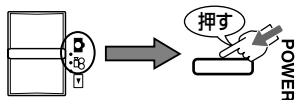
- 最大10枚まで撮影できます。

例）右方向を選択した場合

4 **BACK/NEXTボタンを押して撮影を終了します。**

- 次のパノラマ撮影に進めます。
- パノラマ撮影を解除するには、MENU/OKボタンを押し、メニューで他の撮影シーンを選択します。☞P.40
- パノラマ合成機能付きのカード以外でパノラマ撮影はできません。
- スーパーハイやハイモードで多量のパノラマ撮影をするとパソコンで合成するときにメモリ不足になることがありますので、[PCモニタ]または[Eメール]モードでの撮影をおすすめします。☞「画質モードを選択する」(P.64)
- パノラマ撮影中、次の機能は使えません。
  フラッシュ撮影、連写、セルフタイマー撮影、録音

撮影メニューから機能を選ぶ

撮影モードのメニューには以下のような機能があります。まずはじめにP.54の共通の操作を行ってから、各機能のページに進んでください。

＊1 モードスイッチが に設定されている場合には表示されません。
＊2 ［シーン選択］が［シーン］に設定されている場合には表示されません。
＊3 選択している撮影シーンによっては、設定できない場合があります。

1 📷 または 🎥 モードでカメラの電源を入れます。

2 メニューを表示します。

現在の設定が表示されます。

操作ガイドが表示されます。

戻る➡BACK：

押す
前の画面に戻ります。（ここではメニューから抜けます）

選択➡：

まわして選ぶ
選択肢を選びます。

決定➡OK：MENU/OK

押して決定
設定の変更を確定します。

3 項目を選択します。

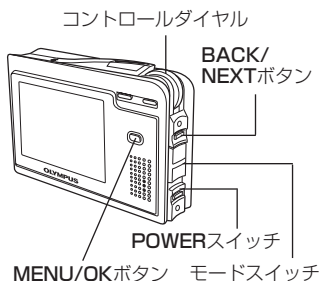
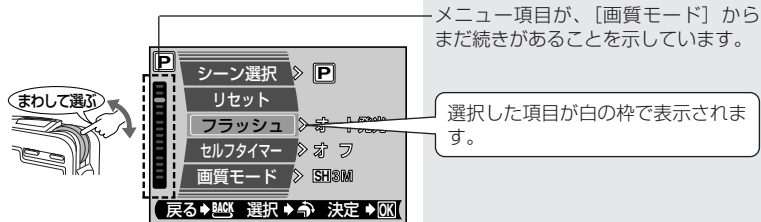
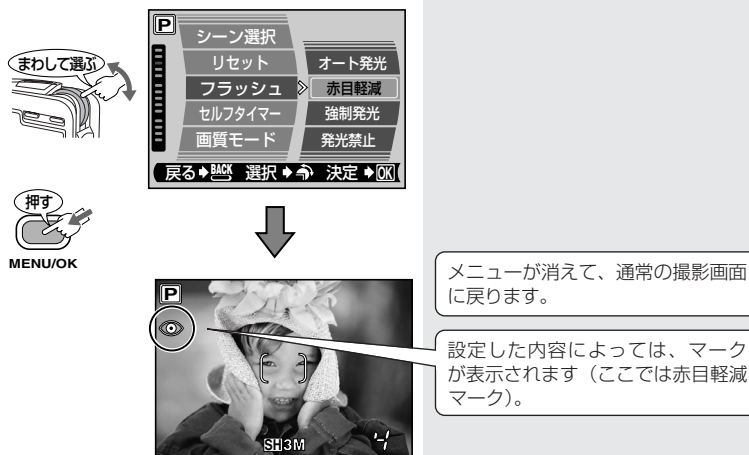
メニュー項目が、［画質モード］からまだ続きがあることを示しています。

選択した項目が白の枠で表示されます。

選んだメニュー項目の設定が表示されます。

4 設定を選択して、確定します。

メニューが消えて、通常の撮影画面に戻ります。

設定した内容によっては、マークが表示されます（ここでは赤目軽減マーク）。

フラッシュ

撮影状況や目的にあわせて、4種類のフラッシュモードから選んで設定できます。

オート発光 （表示なし）

暗いときや逆光のときに、フラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減 （◉）

暗い場所でフラッシュを使って人物を撮影するとき、目が赤く写る現象を軽減したいときに選択します。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

強制発光 （ϟ）

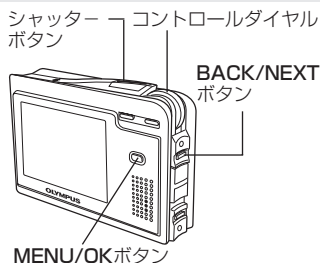
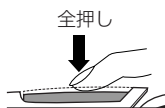
フラッシュを明るいところでも発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

発光禁止 （ⓧ）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。美術館などのように、フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない夜景・夕景を撮りたいときにも使用します。

1 **メニューで［フラッシュ］を選択し、フラッシュモードを選びます。☞P.53**

2 **シャッターボタンを半押しします。**

シャッターボタン
コントロールダイヤル
BACK/NEXTボタン
MENU/OKボタン

フラッシュが発光するときは、⚡（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。点滅しているときは充電中です。点滅が止まるまでお待ちください。

フラッシュ到達距離
広角時：約0.3 ～3.6m
望遠時：約0.3 ～2.0m

3 **シャッターボタンを全押しして撮影します。**

❗ フラッシュについての注意

- 選択している撮影シーンによっては、フラッシュが使えない場合があります。☞P.43
- ムービー撮影の場合（☞ P.34）フラッシュは使えません。
- フラッシュが発光禁止のときに手ぶれのおそれがあるときは、（手ぶれ警告）マークが点滅します。フラッシュを使用してください。

赤目軽減 （◉）

- 連写（☞P.59）を設定しているときは使えません。
- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- 個人差のほか、距離が遠いとき、予備発光を見ていないときなどは、効果が出ない場合があります。

強制発光 （⚡）

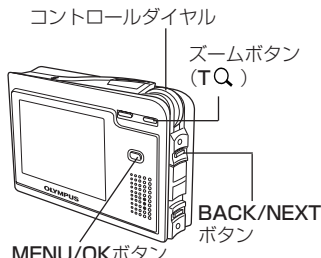
- 非常に明るいところでは、効果が出ない場合があります。

発光禁止 （⚡）

- 暗いところの撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、三脚のご使用をおすすめします。

デジタルズーム

デジタルズームを使うと、光学ズームとあわせて最大約8倍の望遠撮影が可能になります。

1 **メニューで［デジタルズーム］を選択し、［オン］に設定します。****☞P.53**

2 **ズームボタン(TQ)を押します。**

デジタルズームが設定されると、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップするとデジタルズームになります。

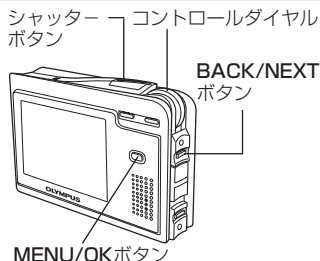
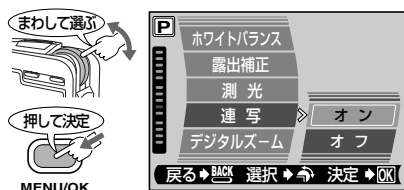
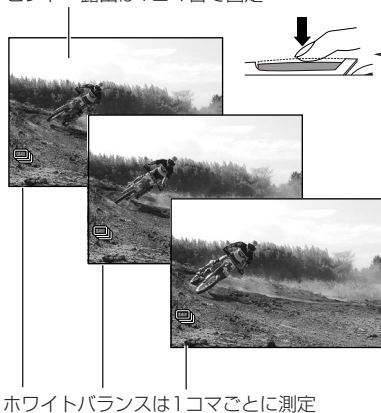
デジタルズームについての注意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- 望遠になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。
- 撮影モードが［スーパーマクロ］（☞P.46）、［セルフポートレート］（☞P.45）に設定されていると、デジタルズームは使えません。

4 撮影に便利な機能を使う

連写

静止画を連続して撮影します。画質がスーパーハイの場合、約3コマの連続撮影ができます。

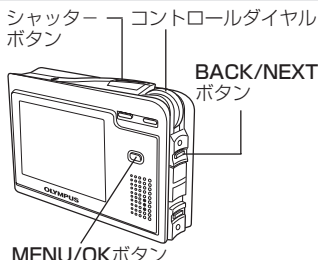
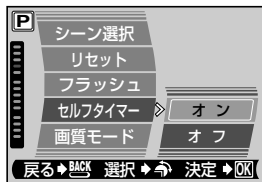
1 **メニューで［連写］を選択し、［オン］に設定します。**☞P.53

2 **撮影します。**

シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。

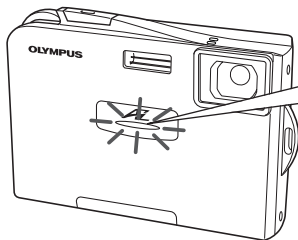
連写についての注意

- 設定された撮影シーンによっては、連写はできません。
- 連写では録音できません。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影します。カメラを三脚にしっかり固定して撮影してください。

1 **メニューで［セルフタイマー］を選択し、［オン］に設定します。**P.53

セルフタイマーマークが表示されます。

2 **撮影します。**

セルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。

- 作動中のセルフタイマーを止めるには、MENU/OKボタンを押します。セルフタイマーランプが消灯します。
- 1回の撮影が終わるとセルフタイマーは自動的に解除されます。

セルフタイマー撮影についての注意

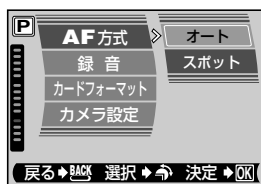
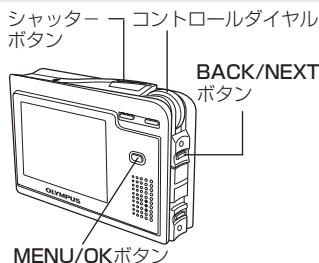
撮影モードが［合成ツーショット］（P.50）、［パノラマ］（P.51）に設定されていると、セルフタイマー撮影はできません。

ピント合わせの範囲を変える［AF方式］

被写体にピントを合わせる方式を選択します。

オート
被写体がAFターゲットマーク（中央）から外れていても、カメラが判断してピントを合わせます。

スポット
AFターゲットマークの位置でピントを合わせます。オートで、狙った位置にピントが合わないとき､フォーカスロックをするときに使います。

1 **メニューで［AF方式］を選択し、［オート］または［スポット］に設定します。** ☞P.53

2 **撮影します。**

AF方式についての注意

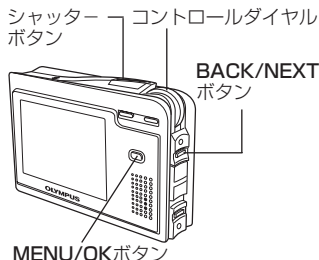
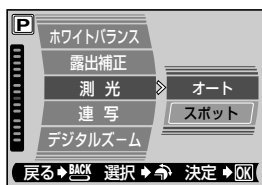
- 撮影モードが［一人旅］（☞P.48）に設定されていると、スポットは使えません。
- デジタルズーム領域では、オートは使えません。

明るさを測る範囲を変える［測光］

逆光で撮影すると、通常の測光（オート）では撮りたいものが暗くなることがあります。この場合、スポット測光に変更すると、背景の光に影響されることなく、画面中央部の明るさに合わせて撮影できます。

オート
画面の中央と周辺を個別に測光して画面全体でバランスのとれた撮影を行います。強い逆光では、中央が暗く撮影されることがあります。

スポット [•]
画面中央のみを測光するので、逆光での中央の被写体を撮るのに適しています。

1 **メニューで［測光］を選択し、［オート］または［スポット］に設定します。** ☞P.53

2 **撮影します。**

画像の明るさを変える［露出補正］

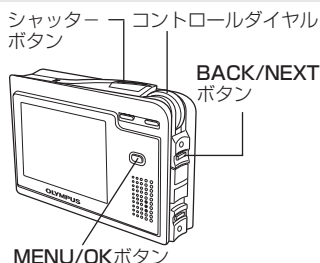
撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く映ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。
黒い被写体を撮影するときは、逆に－に補正すると効果的です。1/3 EV 刻みで±2.0 EV の範囲で設定できます。

1 **メニューで［露出補正］を選択します。**
☞P.53

2 **補正値を選択します。**

＋の方向で明るく、－の方向で暗くなります。

3 **撮影します。**

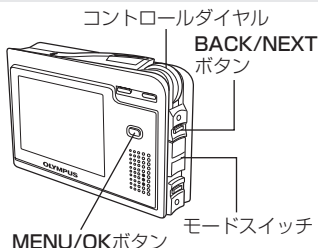
シャッターボタン
コントロールダイヤル
BACK/NEXTボタン
MENU/OKボタン

露出補正についての注意

- フラッシュを使用すると、意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 被写体の周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、補正しきれないときがあります。

画質モードを選択する

プリント用、パソコンでの加工用、Eメール添付用など、用途に合わせて撮影する画像の画質を設定します。

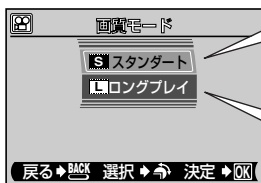
静止画撮影のとき

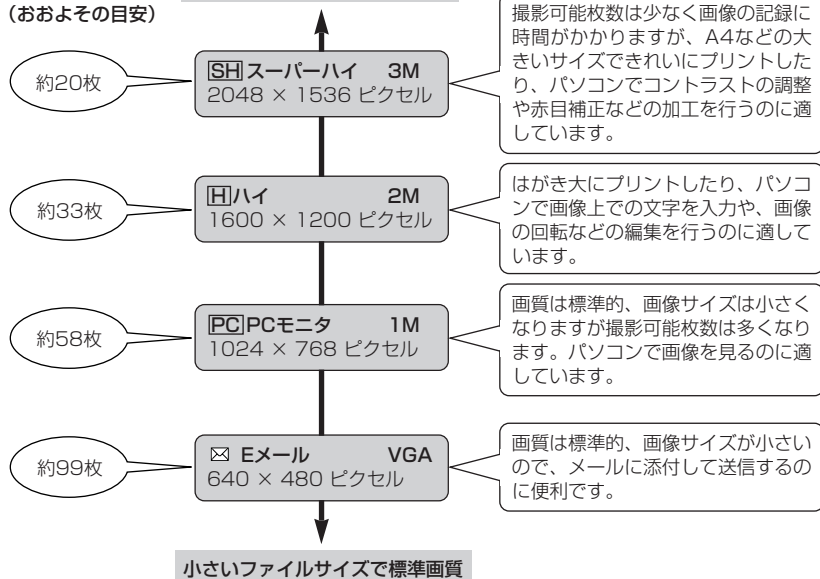
1 📷 モードで、メニューから［画質モード］を選択します。☞P.53

2 画質を選択します。

- P.65を参照して、用途に合った画質を選んでください。
- 設定された撮影シーンによっては、［スーパーハイ］、［ハイ］が選択できない場合があります。☞P.44

動画撮影のとき

1 🎥 モードで、メニューから［画質モード］を選択します。☞P.53

2 画質を選択します。

画像サイズ→320 × 240（15コマ／秒）

画像サイズ→160 × 120（15コマ／秒）

画質モードについての注意

撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。

画像サイズ

画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

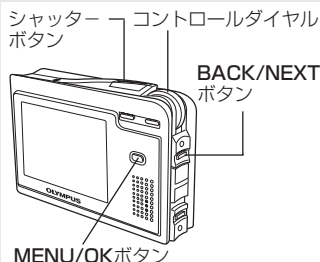
画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ

撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768 のとき画像を等倍（100 %）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024 など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

画像の色合いを調整する［ホワイトバランス］

被写体の色は光源によって変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違ってみえます。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に再現することができます。

1 メニューで［ホワイトバランス］を選択します。☞P.53

シャッターボタン
コントロールダイヤル
BACK/NEXTボタン
MENU/OKボタン

2 ホワイトバランスの種類を選択します。

まわして選ぶ
押して決定
MENU/OK

光源によらず、自然な色合いで写るよう自動的に調整します。

☀ 晴れた屋外で自然な色に写ります。

☁ 曇った屋外で自然な色に写ります。

電球の灯りで自然な色に写ります。

蛍光灯の灯りで自然な色に写ります。

3 撮影します。

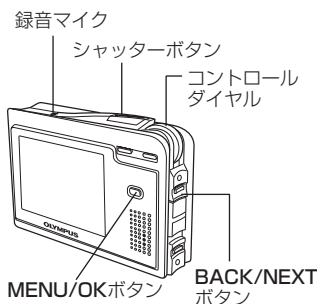
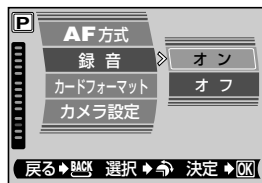
! ホワイトバランスについての注意

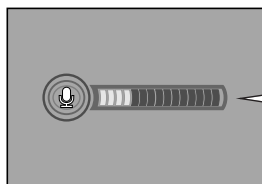
- 特殊な光源下では、ホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。☞「再生する」（P.70）
- オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。
- 撮影シーンを選んで撮影する場合（☞P.40）、ホワイトバランスは自動的に設定されます。

撮影に合わせて音声を記録する

静止画撮影時に音声を録音します。シャッターが閉じてから約0.5秒後に録音を開始し、約4秒間録音します。
［録音］を［オン］に設定すると、撮影後、毎回自動的に録音します。

1 **メニューで［録音］を選択し、［オン］に設定します。** ☞P.53

P SH3M 6

🎙 が表示されます。

2 **録音が始まったら、カメラの録音マイクを録音する対象に向けます。**

録音中はバーが表示されます。

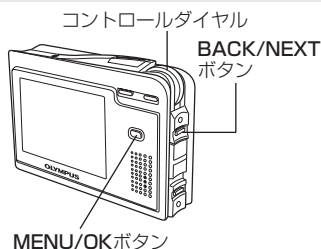
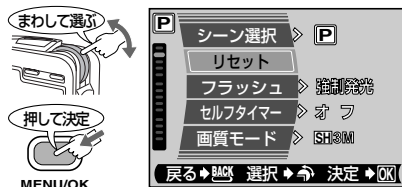
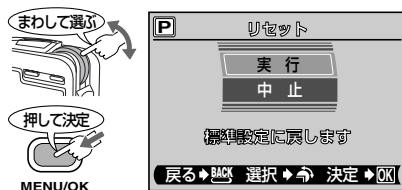
音声をあとから録音することができます。また、録音済みの音声を録音し直すこともできます。☞「撮った画像に音声をつける（アフレコ）」（P.97）

録音についての注意

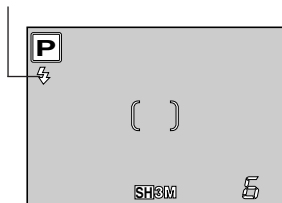
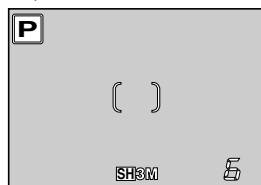
- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。
- 録音中は撮影ができません。
- 連写・合成ツーショット・パノラマ撮影では、録音はできません。
- ムービー（動画）撮影のときは常に録音されます。🎥モードでは、録音のオン／オフ設定はできません。
- 録音中にボタン操作などを行うと、その音が録音されてしまうことがあります。

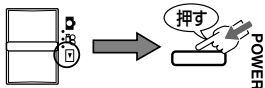
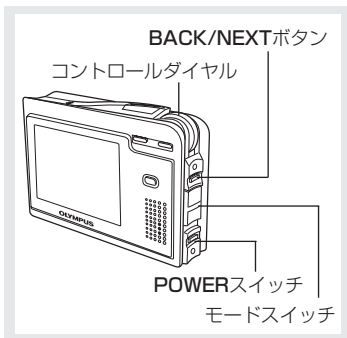
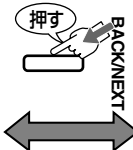
リセット

撮影メニューで変更した設定の内容は、電源を切った後も残っています。このリセット機能を使うと、設定した内容を初期設定（☞P.204）に戻せます。

1 メニューで［リセット］を選択します。 ☞P.53

2 ［実行］を選択します。

各設定値が初期設定に戻ります。

［カメラ設定］メニュー（☞P.112）の設定は保持されます。

例）メニューの［フラッシュ］の設定

静止画を見る

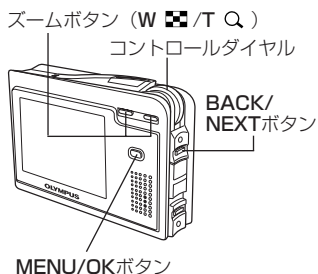
1 ▶ モードでカメラの電源を入れます。

2 コントロールダイヤルを使って、見たい画像を再生します。

❗ 液晶モニタについての注意

- 10分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯しカメラの電源が切れます。
- ACアダプタを使っているときは、液晶モニタは消灯しません。

クローズアップで見る

画像を4倍まで段階的に拡大表示（クローズアップ）します。

1 **見たい画像を再生します。**
☞「静止画を見る」(P.70)

2 **ズームボタン🔍を押して、画像を拡大します。**

画像が1.5倍にクローズアップされます。
- マークのついた画像はクローズアップできません。

コントロールダイヤルで表示する範囲を動かせます。☞「画像をずらして見る」(P.72)

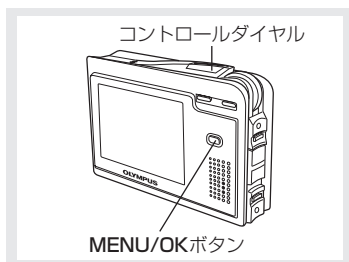
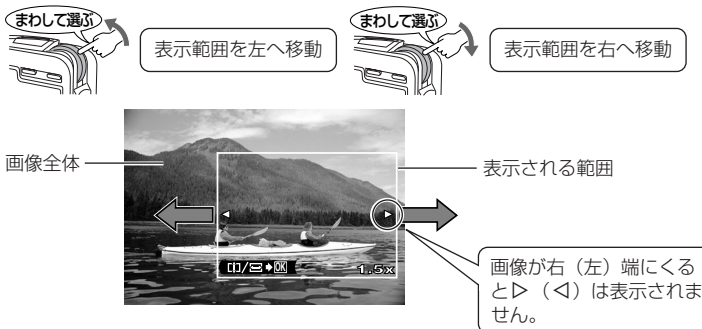
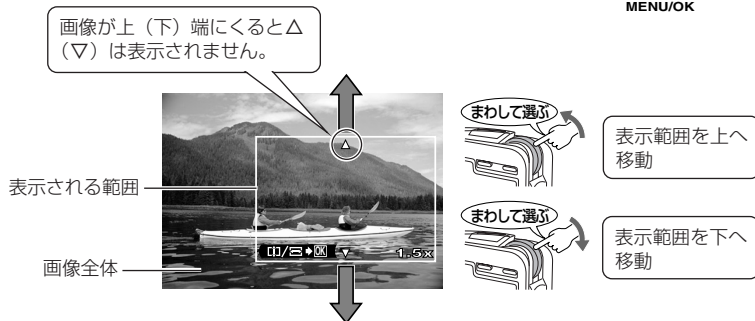
ズームボタンを押すたびに、0.5倍刻みでクローズアップします。

MENU/OKボタンを押すと、コントロールダイヤルで移動する方向が変わります。

1倍に戻ります。

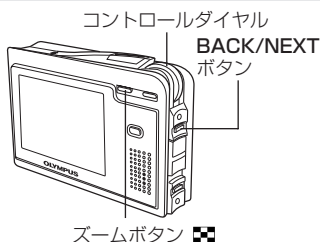
画像をずらして見る

クローズアップ再生中に、画像を水平方向や垂直方向にずらして表示することができます。

1 画像をクローズアップします。
☞「クローズアップで見る」(P.71)

2 画像を水平方向にずらすときはコントロールダイヤルを使います。

3 画像を垂直方向にずらすには、MENU/OKボタンを押してから、コントロールダイヤルをまわします。

インデックス再生をする

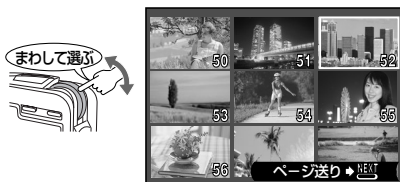
液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像から目的の画像をすばやく見つけることができます。

1 画像を再生します。
☞「静止画を見る」(P.70)

ズームボタン を押します。

- 9分割のインデックス再生になります。
- 表示するコマは4、16、25分割も選択できます。☞「インデックス画面の分割数を変える」(P.125)

5

再生する

2 コントロールダイヤルをまわして、枠を選択したいコマに移動させます。

ズームボタン🔍を押すと、1コマ再生に戻ります。

3 BACK/NEXTボタンを押して、ページ送りに切り換えます。

4 他のインデックス画面を表示します（ページ送り）。

前の9コマがインデックス表示されます。

コントロールダイヤルを上にまわします。

コントロールダイヤルを下にまわします。

次の9コマがインデックス表示されます。

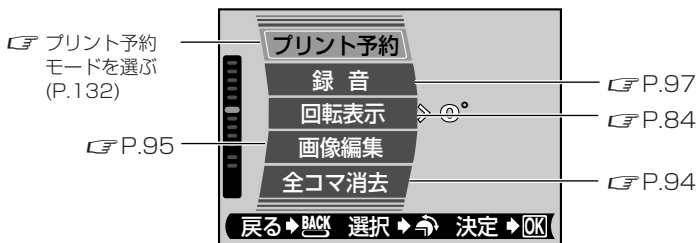
5 BACK/NEXTボタンを押して、1コマ送りに切り換えます。

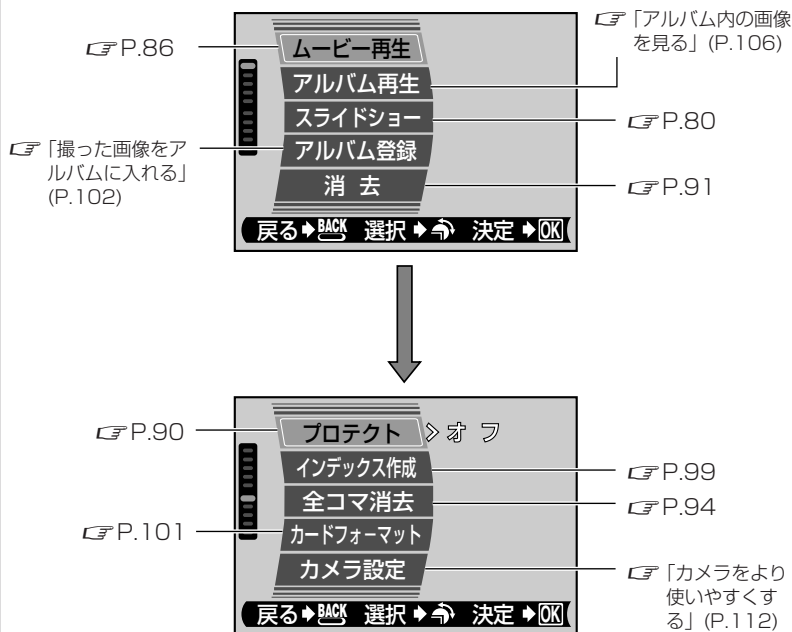
5

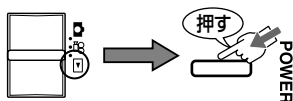
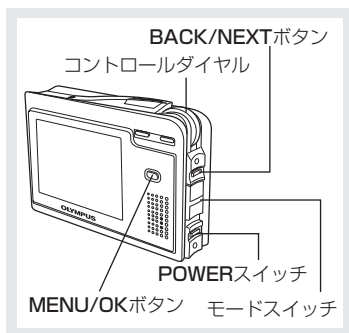
再生する

再生メニューから機能を選ぶ

再生モードのメニューには以下のような機能があります。まずはじめにP.78の共通の操作を行ってから、各機能のページに進んでください。

静止画再生メニュー

ムービー再生メニュー

マークが付いた画像を再生しているときだけ、以下のメニューが表示されます。

アルバム再生中はメニュー項目がかわります。「メニュー一覧」（P.206）を参照してください。

1 ▶ モードでカメラの電源を入れます。

2 メニューを表示します。

現在の設定が表示されています。

操作ガイドが表示されます。

戻る➡BACK ： BACK/NEXT

押す
前の画面に戻ります。（ここではメニューから抜けます）

選択➡ ：

まわして選ぶ
選択肢を選びます。

決定➡OK ： MENU/OK

押して決定
設定の変更を確定します。

3 項目を選択します。

メニュー項目が、［プロテクト］からまだ続きがあることを示しています。

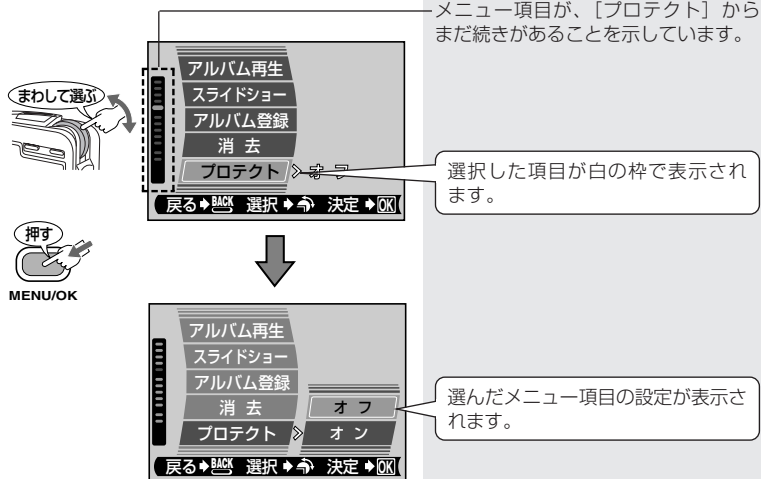
選択した項目が白の枠で表示されます。

選んだメニュー項目の設定が表示されます。

4 設定を選択して、確定します。

メニューが消えて、通常の再生に戻ります。

設定した内容によっては、マークが表示されます（ここではプロテクトマーク）。

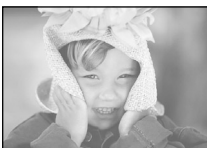
5

再生する

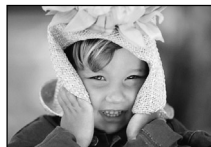
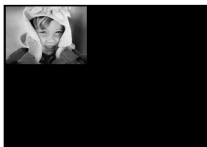
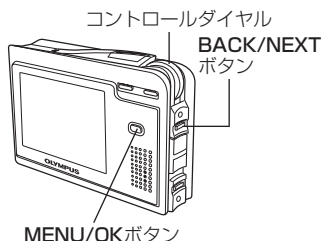
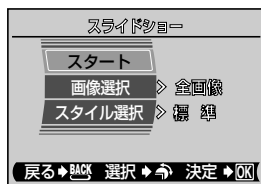
スライドショー（画像を連続自動再生する）

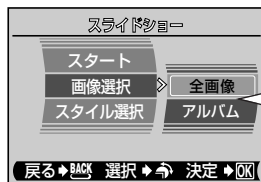
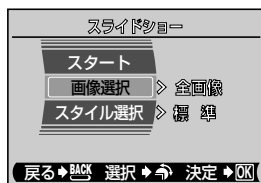
カードに記録されている画像を1コマずつ連続して再生します。ムービーは、最初のフレームのみが再生されます。

画像の切り替わりのときの効果（スタイル）を選ぶことができます。

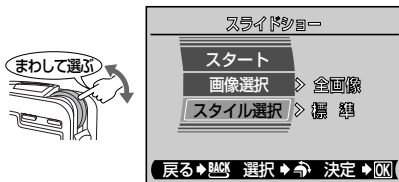
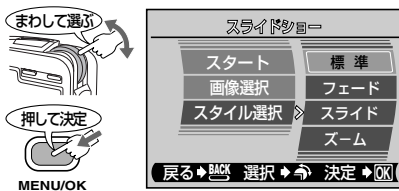
標準 カードに記録されている画像を１コマずつ再生します。

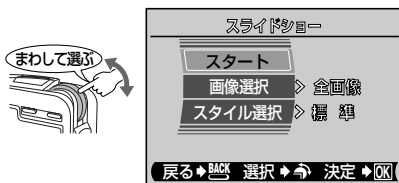
フェード 次の画像が徐々に浮かび上がるように表示されます。

スライド 次の画像が画面の上から下へ、また下から上へと交互にスライドして表示されます。

ズーム 次の画像が画面左上から徐々に広がって表示されます。

1 メニューで［スライドショー］を選択します。☞P.76

2 再生する画像を選択する

［画像選択］を選択します。

［全画像］：カード内の全画像をスライドショーで再生します。
［アルバム］：選択したアルバム内の全画像をスライドショーで再生します。☞「スライドショー（アルバム内の画像を連続自動再生する）」(P.107)

スライドショーのスタイルを選択する

[スタイル選択] を選択します。

スタイルを選択します。

スライドショーの種類が表示されます。

3 [スタート] を選択します。

スライドショーの間、コントロールダイヤルをまわして1コマだけ送ったり、戻したりできます。

4 MENU/OKボタンを押して、スライドショーを終了します。

スライドショーがスタートします。

MENU/OKボタンが押されるまで、スライドショーは繰り返されます。

スライドショーについての注意

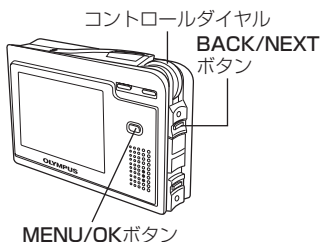
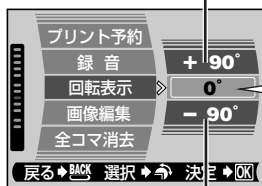
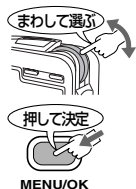
長時間自動再生を行う場合は、ACアダプタのご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、電源が切れます。

画像を回転させて見る

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに表示します。反時計方向に90度、時計方向に90度の回転ができます。

例：
カメラを縦に構えて撮影した画像

1 メニューで［回転表示］を選択します。
☞P.76

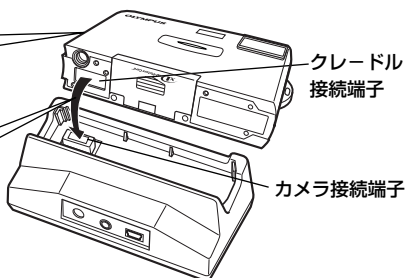
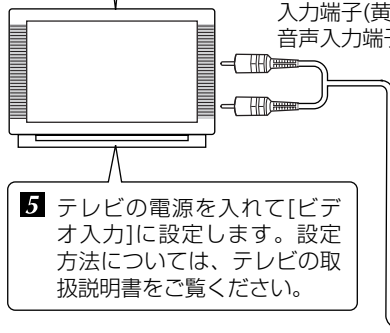
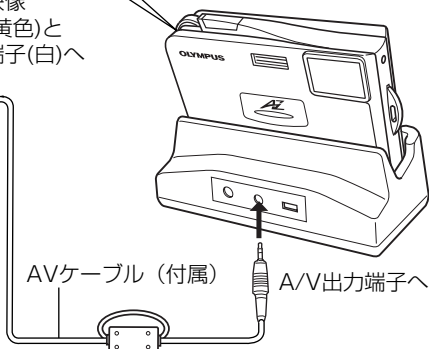
2 [+90°]、[0°]、[−90°] からいずれかを選択します。

時計方向に画像を90°回転させて表示

回転させる前の画像（画面Ⓐ）

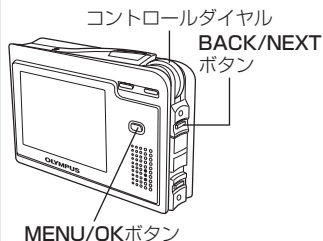
反時計方向に画像を90°回転させて表示

❗ 回転表示についての注意

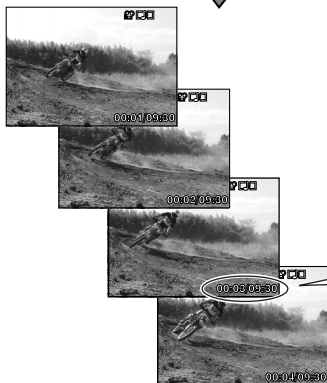
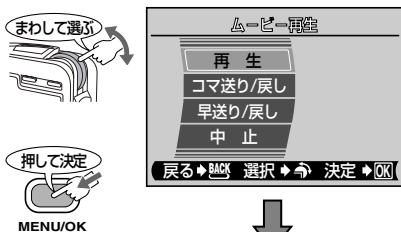
プロテクトされた画像や、アルバムに登録された画像は、回転表示できません。

テレビで画像を再生する

- テレビとの接続には必ず付属のAVケーブルをご使用ください。
- テレビで再生する場合は、ACアダプタ（付属）を使用してください。
- カメラのビデオ信号が、お使いのテレビの映像信号に合っていることを確認してください。☞「ビデオ出力方式を選ぶ」(P.128)
- AVケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタ表示は消えます。
- テレビによっては画像が画面中央からずれることがあります。

ムービー（動画）を見る

1 🎥マークの付いた画像を表示させます。
☞「静止画を見る」(P.70)、「インデックス再生をする」(P.73)

ムービーの先頭コマが表示されます。

2 メニューで［ムービー再生］を選択します。☞P.77

3 ［再生］を選択します。

再生が始まります。

- 再生中にコマ送り／戻し（☞P.87）や早送り／戻し（☞P.88）ができます。
- 再生を途中で止めるときは、MENU/OKボタンを押してメニューを表示して、［中止］を選択します。

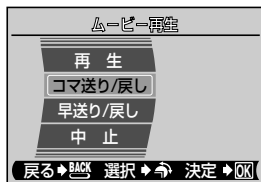
再生時間／記録時間

再生が終わるとメニューが表示されます。☞手順 4 (P.89)

5
再生する

コマ送りで再生する

❶ MENU/OKボタンを押します。

［コマ送り／戻し］を選択します。

メニュー表示中はムービー再生が一時停止します。

❷ コマ送り／戻しをします。

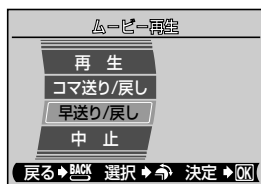
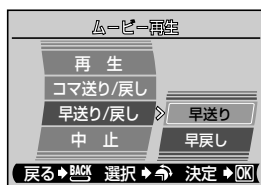
上にまわすと、1つ前のコマを表示。

下にまわすと、次のコマを表示。

MENU/OKボタンを押すとメニューが表示されます。☞手順❹ (P.89)

ムービーを早送り／早戻しする

❶ MENU/OKボタンを押します。

❷［早送り／戻し］を選択します。

［早送り］または［早戻し］を選択します。

早戻し、または早送りがはじまります。

メニュー表示中はムービー再生が一時停止します。

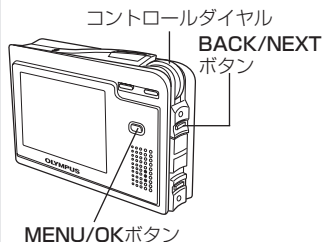
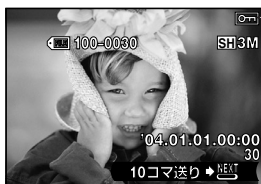
ムービー再生が終わるとメニューが表示されます。☞手順4 (P.89)

4 ムービー再生が終わりメニューが表示されたら、［中止］を選択します。

ムービー再生が終わり、通常の再生に戻ります。ムービーの先頭コマが表示されます。

画像にプロテクトをかける（誤消去防止）

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。選択コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1 プロテクトをかけたい画像を再生します。
☞「静止画を見る」(P.70)、「インデックス再生をする」(P.73)

2 メニューで［プロテクト］を［オン］に設定します。☞P.76

プロテクトマークが表示されます。
プロテクトを解除すると、消えます。

❗ プロテクトについての注意

画像にプロテクトをかけても、フォーマットを行うとすべて消去されます。
☞「カードをフォーマットする」(P.101)

画像を消去する（選択コマ／全コマ）

撮影した画像を消去します。選択したコマのみを消去する選択コマの消去と、カード内のすべての画像を消去する全コマ消去があります。

消去についての注意

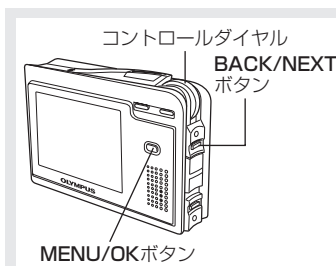
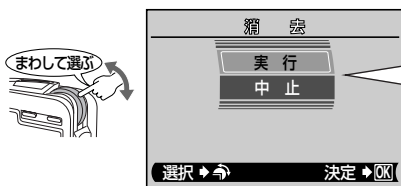
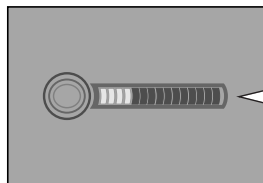
- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクトをかける（誤消去防止）」(P.90)
- アルバムに登録した画像は消去できません。登録を解除してから消去してください。☞「アルバムへの画像の登録を解除する」(P.109)

選択コマの消去

1 メニューで［消去］を選択します。
☞P.76

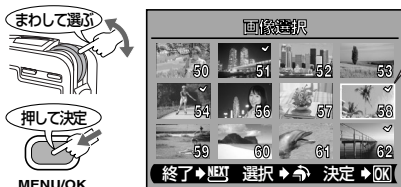
再生している画像を消去する場合
☞下記参照
消去する画像を選択する場合 ☞P.92

再生している画像を消去する

2 ［この画像を消去］を選択します。

3 [実行] を選択します。

消去を実行する画面が表示されます。
[中止]：消去を中止します。

消去している間、表示されます。
消去が終了すると表示が消えます。

消去する画像を選択する

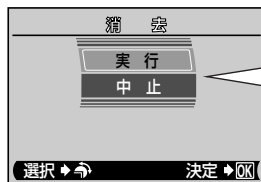
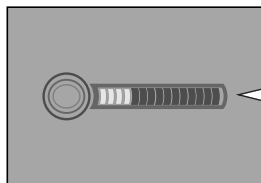
2 [選択消去] を選択します。

3 消去したい画像を選択します。

選択した画像に ✓ マークが表示されます。再度MENU/OKボタンを押すと、選択は解除されます。

✓ を表示したまま、コントロールダイヤルをまわしてページ送りをしようとすると、選択した画像を解除するかどうかを決める［選択解除］画面が表示されます。☞「[選択解除] 画面が表示されたら」(P.93)

4 画像の選択を終了します。

選択した画像がない場合は、画面は手順**2**（☞ P.92)に戻ります。

5 ［実行］を選択します。

消去を実行する画面が表示されます。
[中止]：消去を中止します。

消去している間、表示されます。
消去が終了すると表示が消えます。

［選択解除］画面が表示されたら

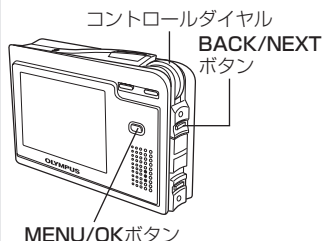
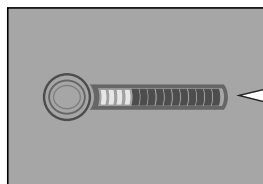
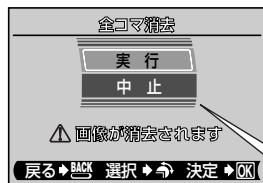
複数ページに渡り、✓マークをつけて画像を選択することはできません。1ページごとに、選択した画像を解除するかどうかを決定します。

［解除する］　：選択した画像を解除します。次ページの画面が表示されます。「消去する画像を選択する」の手順**3**（☞P.92）から操作してください。

［解除しない］：選択した画像は解除されず、元のページの画面に戻ります。選択した画像を消去するには、インデックス画面のページ送りをせずにBACK/NEXTボタンを押してから、手順**5**を行います。

全コマ消去

1 メニューで［全コマ消去］を選択します。
☞P.76

2 ［実行］を選択します。

消去を実行する画面が表示されます。
[中止]：全コマ消去を中止します。

消去している間、表示されます。
消去が終了すると表示が消えます。

静止画を編集する［モノクロ作成／セピア作成／リサイズ］

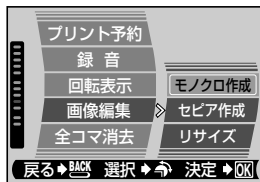
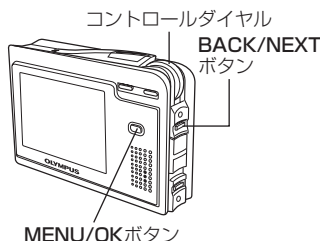
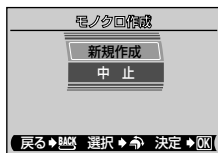
撮影した静止画を編集して別の画像として保存します。以下の編集を行うことができます。

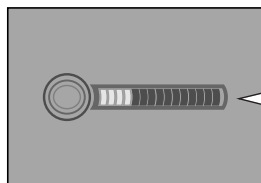
モノクロ作成　白黒に変換して、別の画像として保存します。
セピア作成　セピア色に変換して、別の画像として保存します。
リサイズ　画像サイズを640×480、または320×240に変更して、別の画像として保存します。

モノクロ作成／セピア作成

1 モノクロまたはセピア色にしたい画像を再生します。☞「静止画を見る」(P.70)、「インデックス再生をする」(P.73)

2 メニューで［画像編集］を選択します。☞P.76

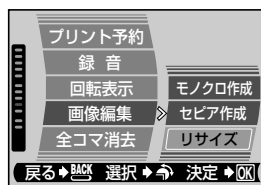
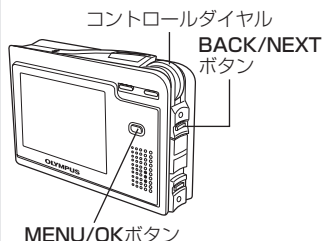
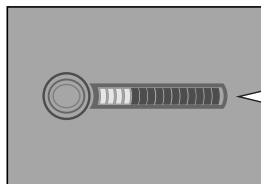
3 ［モノクロ作成］または［セピア作成］を選択します。

4 ［新規作成］を選択します。

モノクロまたはセピア色になった画像が表示されます。

5
再生する

画像を作成している間、表示されます。表示が消えると通常の再生に戻ります。

リサイズ

1 リサイズを行いたい画像を再生します。
☞「静止画を見る」(P.70)、「インデックス再生をする」(P.73)

2 メニューで［画像編集］を選択します。
☞P.76

3 ［リサイズ］を選択します。

4 画像サイズを選択します。

画像を作成している間、表示されます。表示が消えると通常の再生に戻ります。

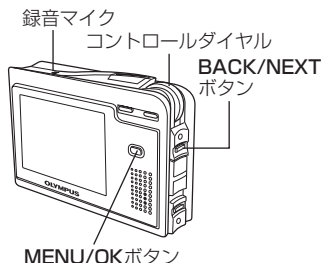
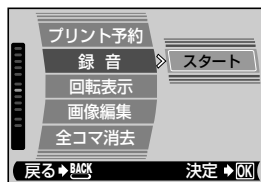
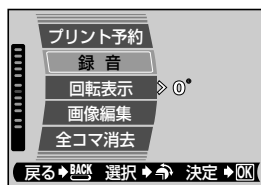
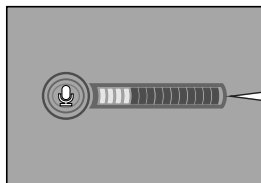
モノクロ作成／セピア作成／リサイズについての注意

- 次の場合は画像編集はできません。
  ムービー／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足しているとき
- 撮影時の画像サイズが640x480（EメールVGA）の場合、［リサイズ］で［640x480］には設定できません。

撮った画像に音声をつける（アフレコ）

撮影した静止画に音声を録音（アフレコ）します。また、録音済みの音声を新たに録音し直すこともできます。録音できる時間は1コマにつき約4秒間です。

1 音声をつけたい画像を再生します。
☞「静止画を見る」(P.70)、「インデックス再生」(P.73)

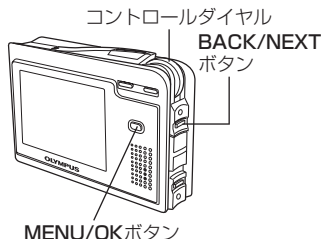
2 メニューで［録音］を選択します。
☞P.76

3 カメラの録音マイクを録音したい対象に向けて、録音を開始します。

録音している間、表示されます。表示が消えると通常の再生に戻ります。

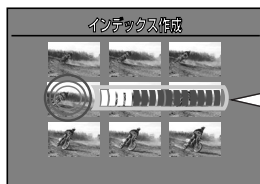
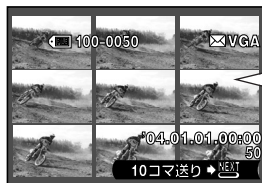
アフレコについての注意

- 録音対象がカメラから約1m以上はなれると、きれいに録音されません。
- 録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい音声のみ残ります。
- カード残量がない場合（警告画面が表示されるカード）では、録音できないことがあります。
- 録音中にボタン操作をすると操作音が録音されることがあります。
- 一度録音したら音声のみを消すことはできません。音声を入れずに（無音状態）再録音してください。

ムービーのインデックスを作る

撮影したムービーの内容が一目でわかるように、ムービーを9コマダイジェスト版にして画面に表示し、1つの画像として保存（インデックス作成）します。

1 **インデックスを作成したいムービーを表示します。**

2 **メニューで［インデックス作成］を選択します。**☞P.77

3 **［新規作成］を選択します。**

インデックスを作成している間、表示されます。

- ムービーから自動的に抜き出された9コマの画像が、インデックス表示されます。作成された画像は、新規の画像として保存されます。
- インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
スタンダード	PCモニタ 1M (1024 x 768ピクセル)
ロングプレイ	EメールVGA (640 X480ピクセル)

インデックス作成についての注意

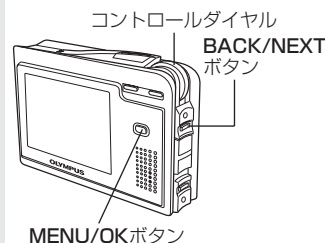
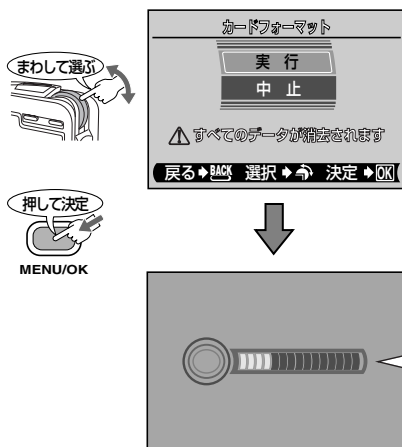
- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

カードをフォーマットする

フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしなおしてください。
フォーマットすると、プロテクトをかけた画像、アルバムに登録した画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードをフォーマットするときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

モード、モードでもフォーマットできます。

1 メニューで［カードフォーマット］を選択します。☞P.76

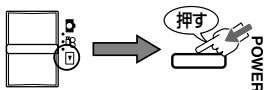
2 ［実行］を選択します。

フォーマットについての注意

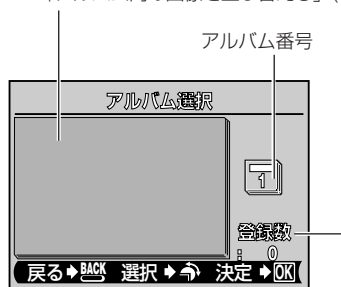
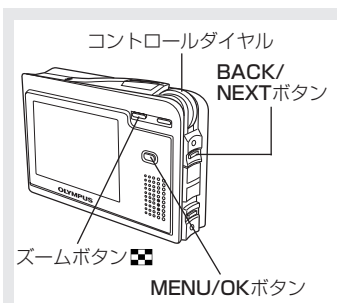
フォーマット中は絶対に次のことをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。
- 電池／カードカバーを開ける
- 電池を取り外す
- ACアダプタを使っているときにクレードルからカメラを取り外す
- ACアダプタの抜き差しをする 。これはカメラに電池が入っている、いないにかかわらず、絶対にしないでください。

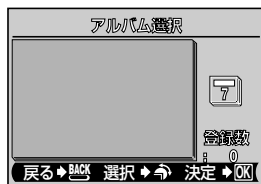
6 気に入った画像をアルバムにまとめる

撮った画像をカード内のアルバムに分類して、整理することができます。アルバムは12個あり、各アルバムに100枚の画像を登録できます。また、付属のCD-ROMに収録されているCAMEDIA Masterを使って、パソコンから画像をカード内のアルバムに入れることもできます。☞「CAMEDIA Masterを使うとできること」(P.187)

撮った画像をアルバムに入れる

1 ▶ モードでカメラの電源を入れます。

2 メニューで［アルバム登録］を選択します。☞P.76

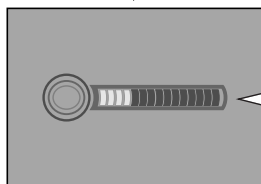
アルバムに登録されている画像の1コマ目が代表コマとして表示されます。画像が登録されていないアルバムでは、何も表示されません。
☞「アルバム内の画像を並び替える」(P.108)

アルバム選択画面が表示されます。

3 画像を登録するアルバムを選択します。

再生している画像を登録する

4 ［この画像を登録］を選択します。

画像の表示に戻ります。アルバムに登録する画像を選択します。

手順**2**（☞P.102）の前に、あらかじめ登録する画像を表示しておきます。

5 ［実行］を選択します。

画像を登録している間、表示されます。表示が消えると、通常の再生に戻ります。

6

気に入った画像をアルバムにまとめる

画像を選択してアルバムに登録する

4 ［選択登録］を選択します。

5 登録したい画像を選択します。

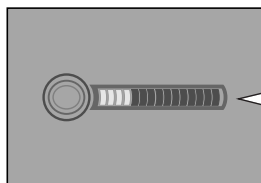
- 選択した画像に ✓ マークが表示されます。再度MENU/OKボタンを押すと、選択は解除されます。
- 他の画像を選択するには、手順 **5** を繰り返します。

1コマ再生でも画像を選択できます。

同じ画像を複数のアルバムに登録することはできません。

6 画像の選択を終了します。

画像を選択しなかった場合は、手順**4**のメニューに戻ります。

7 ［実行］を選択します。

画像を登録している間、表示されます。表示が消えると、通常の再生に戻ります。

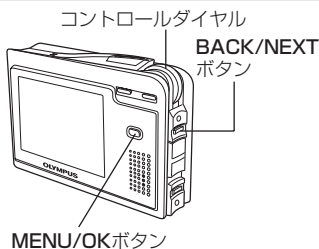
アルバム登録についての注意

- アルバムに登録された画像は消去できません。消去する場合は、まず登録を解除してください。
- フォーマットをするとアルバムに登録された画像も消去されます。
- 同じ画像を複数のアルバムに登録することはできません。

アルバム内の画像を見る

アルバム内の画像だけを再生します。

1 メニューで［アルバム再生］を選択します。☞P.76

2 見たいアルバムを選択します。

- アルバム選択画面が表示されます。
- アルバム内に画像が登録されていないと、［アルバム再生］は選択できません。

アルバムの代表コマ（アルバム内のコマ番号1の画像）が表示されます。

3 選択したアルバム内の画像を再生します。☞「静止画を見る」(P.70)

4 アルバム再生を終了するには、メニューで［アルバム再生終了］を選択します。

6
気に入った画像をアルバムにまとめる

スライドショー（アルバム内の画像を連続自動再生する）

アルバム内の画像を次々と自動的に表示します。

1 スライドショーをしたいアルバム内の画像を再生します。☞「アルバム内の画像を見る」(P.106)

2 メニューで［スライドショー］を選択します。☞P.76

3 ［スタイル選択］を選択します。

スライドショーの各スタイル ☞「スライドショー（画像を連続自動再生する）」(P.80)

4 ［スタート］を選択します。

スライドショーがスタートします。

スライドショーの間、コントロールダイヤルをまわして1コマだけ送ったり、戻したりできます。

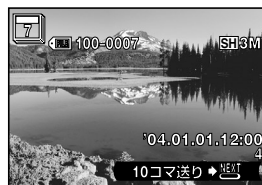
5 スライドショーを終了します。

MENU/OKボタンが押されるまで、スライドショーは繰り返されます。

アルバム内の画像を並び替える

アルバム内のコマ番号は、アルバムに登録した順につけられます。このコマ番号を変えて、画像の並び替えをします。
並び替えにより、スライドショーでの再生の順番を変えることができます。コマ番号を1にすると、アルバムの代表コマとして表示されます。

変更前のコマ番号

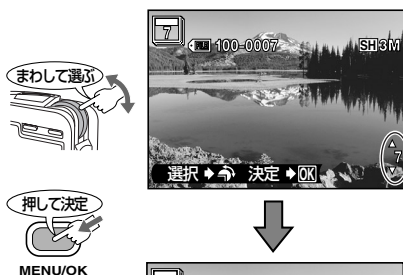
並び替え前

変更後のコマ番号

並び替え後

1 **画像の並び順を替えたいアルバムを再生します。☞「アルバム内の画像を見る」(P.106)**

2 **コマ番号を変えたい画像を再生します。**

3 **メニューで［並び替え］を選択します。☞P.76**

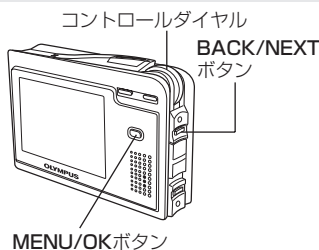
4 **コマ番号を変更します。**

選択したコマ番号が表示されます。

変更されたコマ番号が表示されます。

アルバム再生に戻ります。

コントロールダイヤル

BACK/NEXTボタン

MENU/OKボタン

アルバムへの画像の登録を解除する

アルバムに登録されている画像を解除します。解除はアルバムへの画像の登録を解除するだけで、カードには画像が保存されています。

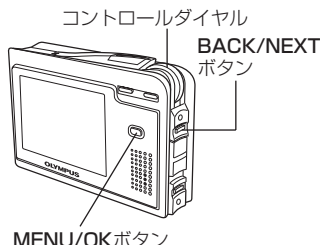
1 アルバム内の画像を再生します。
☞「アルバム内の画像を見る」(P.106)

2 メニューで［解除］を選択します。
☞P.76

表示している画像を解除する場合
☞下記参照
画像を選択して解除する場合 ☞P.110

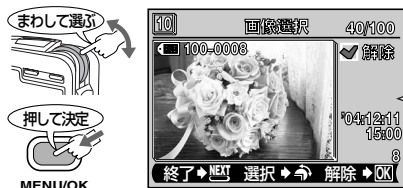
表示している画像を解除する

3 ［この画像を解除］を選択します。

4 ［実行］を選択します。

登録が解除され、メニューが終了します。

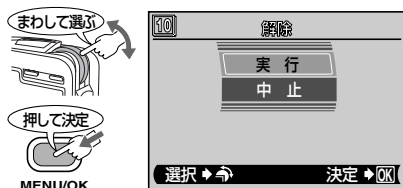
画像を選択して解除する

3 ［選択解除］を選択します。

4 解除したい画像を選択します。

選択した画像に✓マークが表示されます。再度MENU/OKボタンを押すと、選択は解除されます。

5 画像の選択を終了します。

画像を選択しなかった場合は、手順**3**のメニューに戻ります。

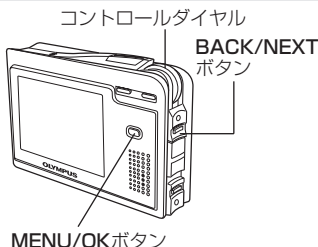
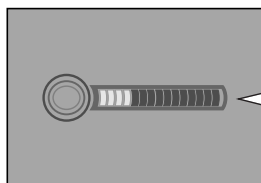
6 ［実行］を選択します。

登録が解除され、メニューが終了します。

アルバム内の全画像の登録を解除する［全コマ解除］

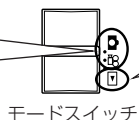
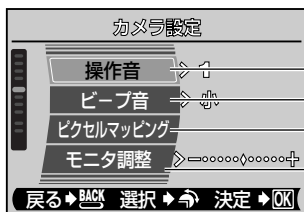
アルバムに登録されている全画像を解除します。解除した画像はカードに保存されています。

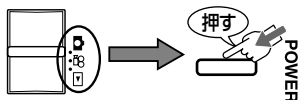
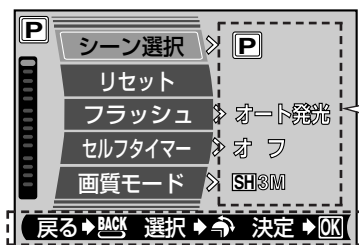
1 登録を解除したいアルバムを再生します。
☞「アルバム内の画像を見る」(P.106)

2 メニューで［全コマ解除］を選択します。
☞P.76

3 ［実行］を選択します。

解除している間、表示されます。表示が消えると、通常の再生に戻ります。

カメラ設定メニューから機能を選ぶ

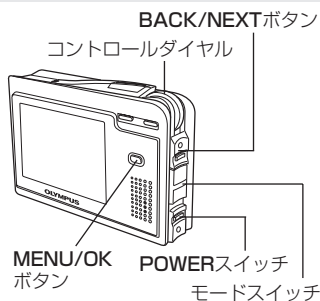
カメラ設定メニューは、撮影時と再生時で異なります。まずはじめにP.113の共通の操作を行ってから、各機能のページに進んでください。

＊1 モードスイッチが になっている場合は設定できません。

1 モードを選択し、カメラの電源を入れます。

2 メニューを表示します。

現在の設定が表示されます。

操作ガイドが表示されます。

戻る➡BACK ： BACK/NEXT
押す
前の画面に戻ります。（ここではメニューから抜けます）

選択➡ ：
まわして選ぶ
選択肢を選びます。

決定➡OK ： MENU/OK
押して決定
設定の変更を確定します。

7

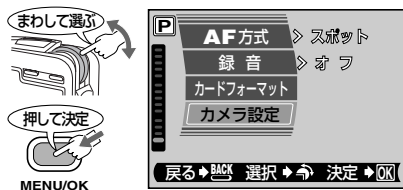
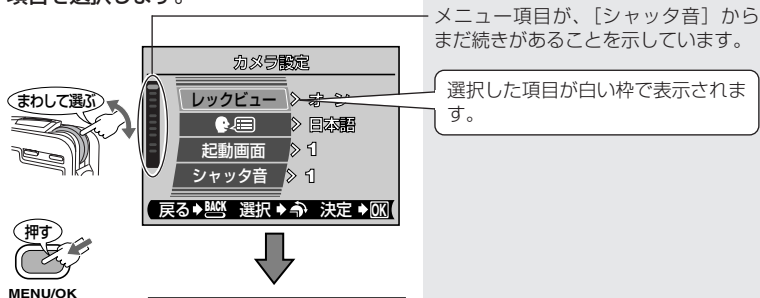
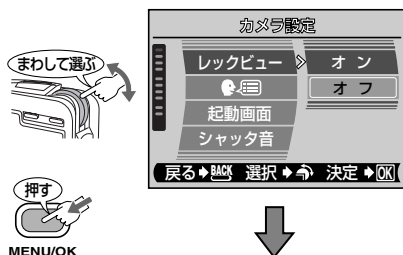
カメラをより使いやすくする

3 [カメラ設定] を選択します。

4 項目を選択します。

メニュー項目が、[シャッタ音] からまだ続きがあることを示しています。

選択した項目が白い枠で表示されます。

選んだメニュー項目の設定が表示されます。

5 設定を選択して、確定します。

機能によっては選択画面に切り替わるものもあります。

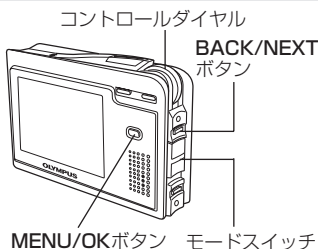
1. OK で、[カメラ設定] メニューに戻ります。(続けて他の項目の設定ができます。)
2. BACK で、[カメラ設定] メニューから撮影／再生メニューに戻ります。
3. さらに BACK で撮影／再生メニューから抜け、撮影(再生)モードに戻ります。

撮影後すぐに画像を確認する［レックビュー］

撮影した直後に画像を液晶モニタに表示するかどうか設定します。

設定できるモード

1 ［カメラ設定］メニューから［レックビュー］を選択します。☞P.112

2 ［オン］または［オフ］に設定します。

撮影した画像を約3秒間表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもすぐに次の撮影に入れます。

記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

7 カメラをより使いやすくする

画像の詳細情報を表示する［情報表示］

再生時の画像の詳細情報を3秒間表示します。表示される情報の内容については、「液晶モニタの表示」（P.18）を参照してください。

設定できるモード ▶

1 ［カメラ設定］メニューから［情報表示］を選択します。☞P.112

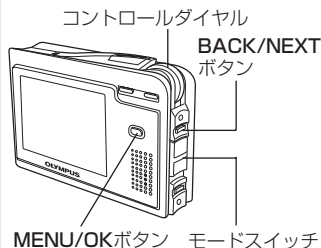
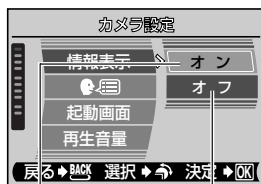
2 ［オン］または［オフ］に設定します。

コントロールダイヤル
BACK/NEXTボタン
MENU/OKボタン
モードスイッチ

まわして選ぶ
押して決定
MENU/OK

カメラ設定
情報表示
起動画面
再生音量
オン
オフ
戻る➡BACK 選択➡ 決定➡OK

100-0010 SH 3M
SIZE:2048x1536
0.0
'04.01.01.00:00
10
10コマ送り➡NEXT

100-0010 SH 3M
'04.01.01.00:00
10
10コマ送り➡NEXT

アルバムに登録されている画像を表示しているとき

情報表示についての注意

- このカメラ以外で撮影した画像は、情報表示オン時でも日時、ファイル番号、電池残量だけが表示されます。
- プリント予約を使用せずにプリントサービスを利用する場合は、ファイル番号で指定してください。

☞「プリント予約とは」（P.130）

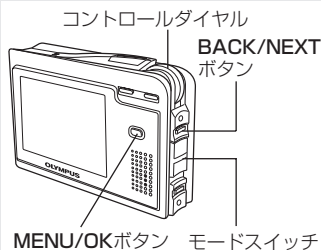
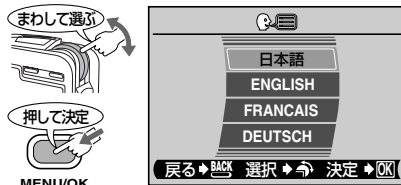
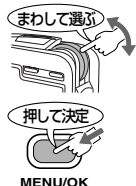
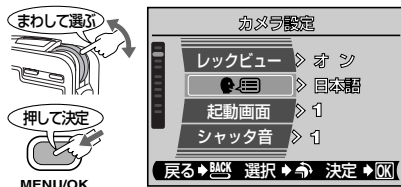
表示する言語を切り替える

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語ではなく、他の言語にすることができます。

1 ［カメラ設定］メニューから を選択します。☞P.112

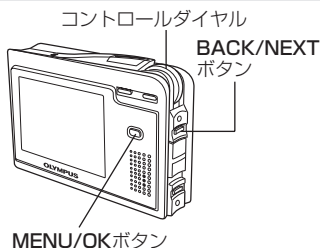
2 言語を選択します。

まわして選ぶ
押して決定
MENU/OK

日本語
ENGLISH
FRANCAIS
DEUTSCH
戻る 選択 決定

起動画面を変える

カメラに電源を入れたとき液晶モニタに表示される画面を変えることができます。

1 ［カメラ設定］メニューから［起動画面］を選びます。☞P.112

2 起動画面を選択します。

白い選択枠を動かすと、選択されている起動画面が再生されます。

7

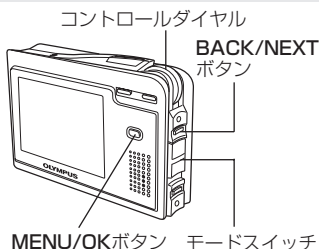
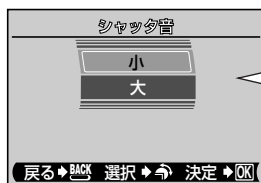
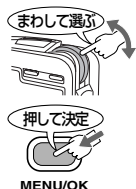
カメラをより使いやすくする

シャッター音を設定する

撮影時のシャッター音を変えたり、消すことができます。また、音量を「小」「大」から選択できます。

設定できるモード

1 ［カメラ設定］メニューから［シャッタ音］を選択します。☞P.112

2 シャッター音を選択します。

- 白い選択枠を動かすと、選択されているシャッター音のサンプルが再生されます。
- マナーショット撮影(☞P.47)に設定されていると選択できません。

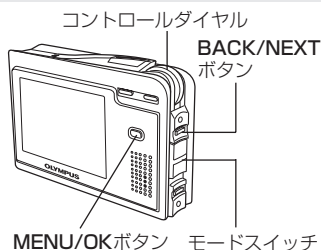
上の画面で［オフ］を選んだ場合、音量設定の画面は表示されません。

再生音量を設定する

静止画やムービー再生時の音量、電源を入れたり切ったりするときの音量を「小」「大」から選択できます。音を消すこともできます。

設定できるモード ▶

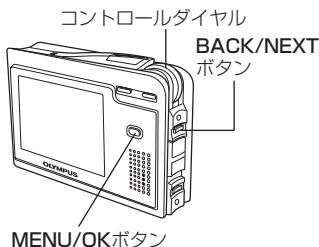
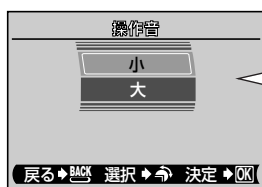
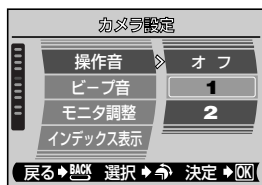
1 ［カメラ設定］メニューから［再生音量］を選択します。☞P.112

2 再生音量を選択します。

白い選択枠を動かすと、選択されている再生音量のサンプルが再生されます。

操作音を設定する

カメラのボタン操作で出る音を変えたり、消すことができます。また、音量を「小」「大」から選択できます。

1 ［カメラ設定］メニューから［操作音］を選択します。☞P.112

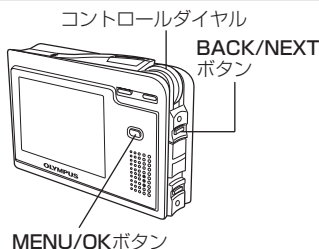
2 操作音を選択します。

- 白い選択枠を動かすと、選択されている操作音のサンプルが再生されます。
- マナーショット撮影(☞P.47)に設定されていると選択できません。

上の画面で［オフ］を選んだ場合、音量設定の画面は表示されません。

警告音を設定する

カメラが出す警告音の音量を変えたり、消すことができます。

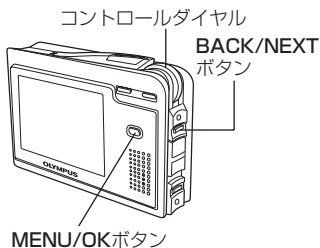
1 ［カメラ設定］メニューから［ビープ音］を選択します。☞P.112

2 警告音を選択します。

- 白い選択枠を動かすと、選んだ警告音量のサンプルが再生されます。
- マナーショット撮影(☞P.47)に設定されていると選択できません。

液晶モニタの明るさを変える

液晶モニタの明るさを調整できます。

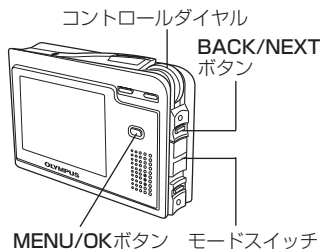
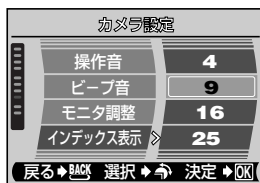
1 ［カメラ設定］メニューから［モニタ調整］を選択します。☞P.112

2 明るさを調整します。

インデックス画面の分割数を変える

インデックス再生（☞P.73）のコマ数を選択できます。

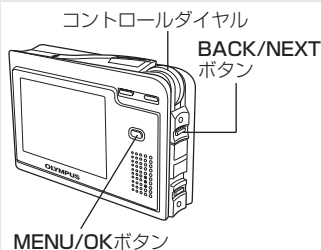
設定できるモード ▶

1 ［カメラ設定］メニューから［インデックス表示］を選択します。☞P.112

2 分割数を選択します。

4コマインデックス表示画面

16コマインデックス表示画面

日付・時刻を設定する

1 ［カメラ設定］メニューから［日時設定］を選択します。☞P.112

2 日時を設定します。

日付の順序を選びます：［年-月-日］、［月-日-年］、［日-月-年］

以下は［年-月-日］に設定した場合の説明です。

日付を設定します。

年の入力に移動します。年の上2桁は固定されています。

同様の操作を繰り返して時刻まで入力します。

時刻は24時間表示です。午後2時は14:00と表示されます。

3 最後に［設定］が選択されている状態で、MENU/OKボタンを押します。

時計はこのとき動き始めます。

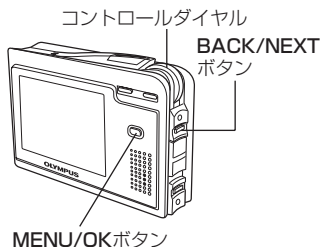
日時設定についての注意

- 日時設定は、電源を切っても保持されます。
- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は解除され、初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。電池を入れたときは、日時の設定が正しいことを確認してください。
- 日時設定が解除されると、カメラの電源を入れたときに液晶モニタに警告表示が出ます。☞「エラーコード表示」（P.190）

ビデオ出力方式を選ぶ

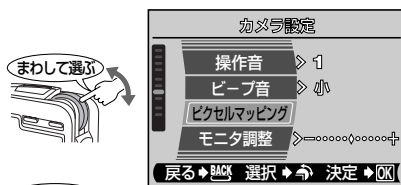
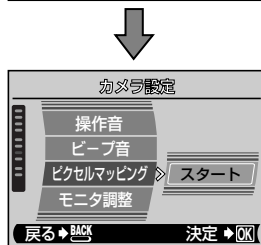
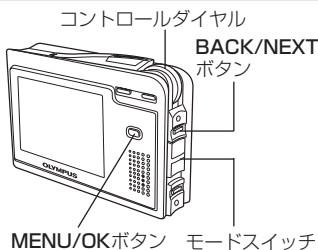
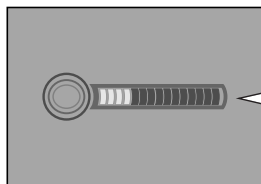
お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。

1 ［カメラ設定］メニューから［ビデオ出力］を選択します。☞P.112

2 ビデオ出力方式を選択します。

主な国と地域のテレビ映像信号
海外でカメラを接続する前に、あらかじめご確認ください。
NTSC　日本、台湾、韓国、北米
PAL　ヨーロッパ諸国、中国

画像処理機能をチェックする［ピクセルマッピング］

CCDと画像処理機能のチェックと調整を同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに行う必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るために、撮影・再生直後から1 分以上時間を空けて実行してください。

1 ［カメラ設定］メニューから［ピクセルマッピング］を選択します。☞P.112

ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。

ピクセルマッピングについての注意

誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

8 プリント予約をしてお店でプリントする

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させせることです。
プリント予約をすると、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。
DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。

プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容に従ってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、DPOF対応のプリンタを使ってカードから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。
PCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

（例） FILE 100－0011

フォルダの通し番号　画像の通し番号

ファイル番号

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi（dot per inch）と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。

プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをより高画質に設定することをおすすめします。

☞「画質モードを選択する」（P.64）

❗ プリント予約についての注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き容量が少ないと「カード残量がありません」と表示され、予約できない場合があります。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999コマまでです。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

プリント予約モードを選ぶ

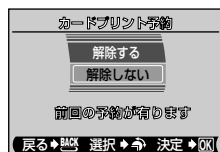
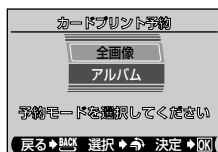
プリント予約モードには、［1コマ予約］と［全コマ予約］があります。

［1コマ予約］：選択した画像のみをプリント予約します。☞P.135

［全コマ予約］：カード内の全画像、またはアルバム内の全画像をプリント予約します。☞P.138

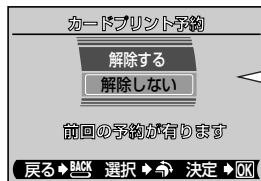
1 静止画を再生します。☞「静止画を見る」(P.70)

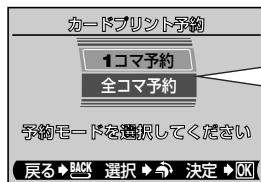
2 メニューで［プリント予約］を選択します。☞P.76

手順 **2** を実行した後に以下の画面が表示されたら、各ページを参照してください。

カードにプリント予約した画像がすでにある場合
☞P.133

カードにアルバム登録された画像がある場合
☞P.134

🎥（ムービー）マークがついた画像はプリント予約できません。

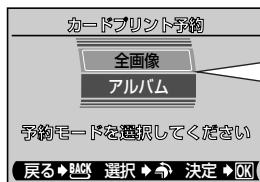
カードにプリント予約した画像がすでにある場合

❶ その予約設定を残すか、解除するかを選択します。

[解除する]：予約設定を解除します。
[解除しない]：予約設定を残します。

アルバムに登録された画像がある場合は、解除する／しないを実行した後、P.134の❶に進みます。

❷ プリント予約モードを選択します。

1コマ予約 ☞P.135
全コマ予約 ☞P.138

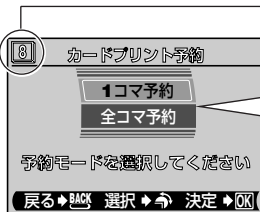
カードにアルバム登録された画像がある場合

❶ プリント予約の対象を選択します。

[全画像]：カード内のすべての画像が対象です。手順❸へ。
[アルバム]：選択したアルバム内の画像が対象です。手順❷へ。

アルバム再生（☞P.106)からプリント予約に入った場合は、この画面は表示されません。

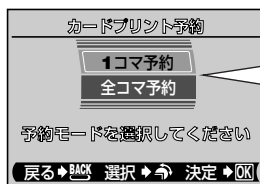
❷ アルバムを選択します。

アルバムの代表コマ

選択しているアルバム番号

❸ プリント予約モードを選択します。

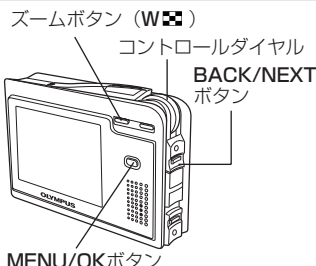
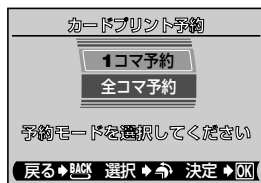
[8]：アルバムのプリント予約では、アルバム番号が表示されます。

1コマ予約 ☞P.135
全コマ予約 ☞P.138

3 プリント予約モードを選択します。

1コマ予約 ☞P.135
全コマ予約 ☞P.138

1コマ予約をする

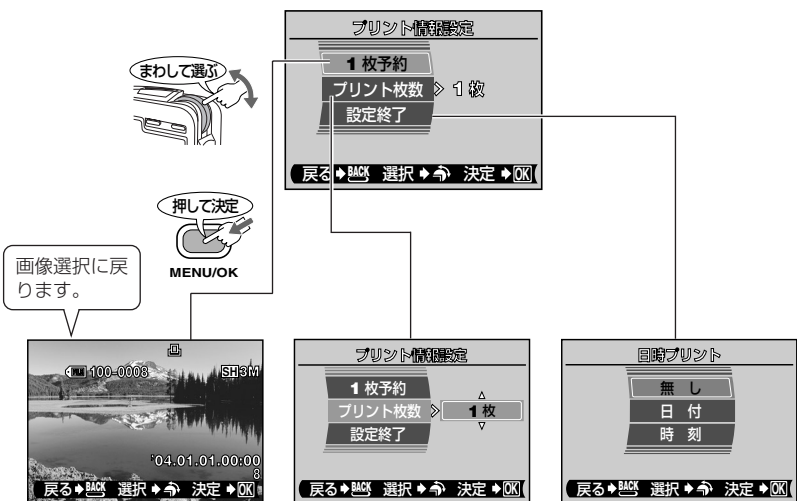
選択した画像のみをプリント予約します。また、すでに予約した枚数や日時のプリントなどの条件を変更します。プリントする画像を表示してプリント枚数を設定します。

1 ［1コマ予約］を選択します。

2 プリント予約したい画像を選択します。

- 画像を表示して選択します。
- すでにプリント予約されている画像には、🖶 が表示されます。

インデックス画面で画像を選択できます。☞「インデックス再生をする」(P.73)

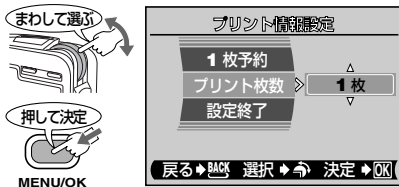
アルバム内の画像をプリント予約するときは、インデックス再生はできません。

3 プリント予約したい内容に応じて、項目を選択します。
[1枚予約]　　：プリント枚数を1枚で予約します。
[プリント枚数]：プリント枚数を設定します。（下記参照）
[設定終了]　　：プリント設定を終了し、日時プリント設定に進みます。
☞P.137

他の画像をプリント予約します。☞手順**2**（P.135）

☞「[プリント枚数]を選択した場合」（下記参照）

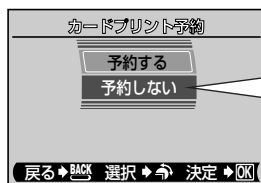
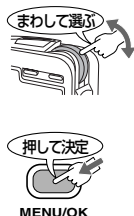
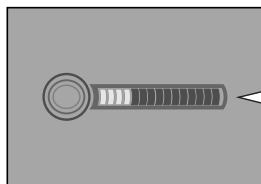
☞「[設定終了]を選択した場合」（P.137）

[プリント枚数]を選択した場合

4 プリント枚数を選択します。

手順**2** の画面に戻ります。他の画像をプリント予約します。☞P.135

［設定終了］を選択した場合

4 日時プリントの設定の種類を選択します。
［無し］：画像のみプリントされます。
［日付］：すべての画像に撮影年月日がプリントされます。
［時刻］：すべての画像に撮影時刻がプリントされます。

5 ［予約する］を選択します。

設定を取り止めるときは、［予約しない］を選択します。

予約の設定を記録しています。終了すると再生メニューに戻ります。

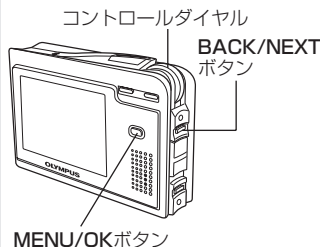
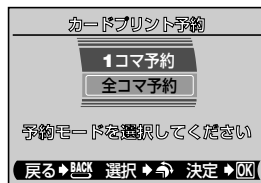
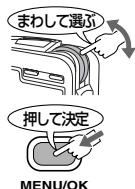
プリント予約マーク
プリント枚数

予約枚数が1枚のときは、プリント枚数は表示されません。

プリント予約された画像

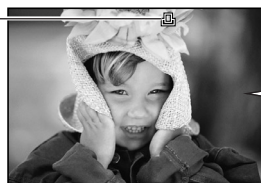
全コマ予約をする

カード内の全画像または選択したアルバム内の画像すべてをプリント予約します。撮影日または撮影時刻のプリントを指定することができます。全画像1枚ずつのプリント予約になります。

1 ［全コマ予約］を選択します。

2 日時プリントの設定の種類を選択します。

［無し］：画像のみプリントされます。

［日付］：すべての画像に撮影年月日がプリントされます。

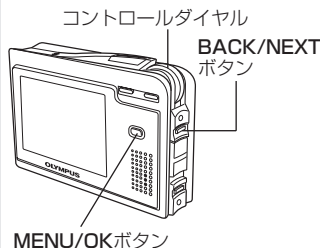
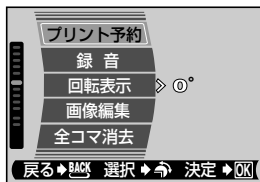
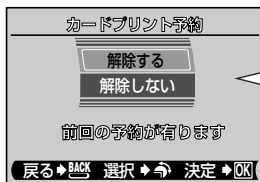
［時刻］：すべての画像に撮影時刻がプリントされます。

3 ［予約する］を選択します。

プリント予約を解除する

プリント予約を解除します。すべてのプリント予約を解除する方法と選んだ画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

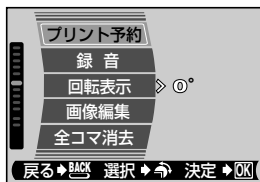
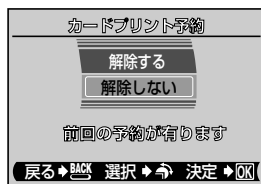
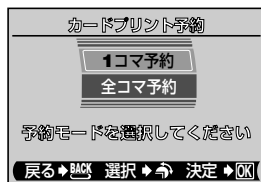
すべての予約の解除

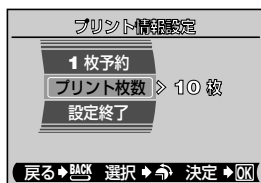
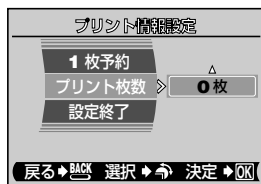
1 静止画を再生します。☞「静止画を見る」(P.70)

2 メニューで［プリント予約］を選択します。☞P.76

3 ［解除する］を選択します。

すべてのプリント予約が解除されます。

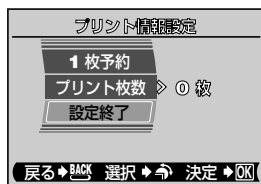
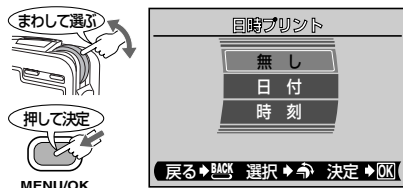
プリント予約した画像がない場合、表示されません。

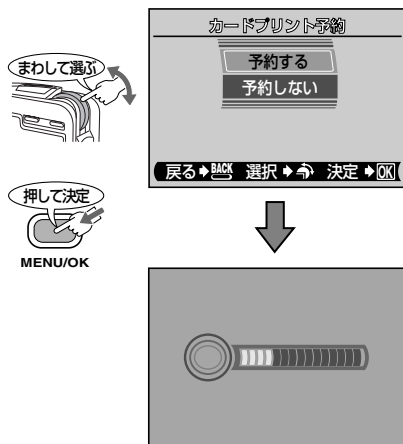
1コマ予約の解除

1 メニューで［プリント予約］を選択します。☞P.76

2 ［解除しない］を選択します。

3 ［1コマ予約］を選択します。

4 プリント予約を解除したい画像を選択します。

5 ［プリント枚数］を選択し、［0］にします。

- 手順 4 の画面に戻ります。
- 他の画像のプリント予約を解除する場合、手順 4 と 5 を繰り返します。

6 プリント予約の解除を終了します。

7 ［予約終了］を選択します。

8 日時プリントの設定の種類を選択します。

解除されていない残りの予約画像に適用されます。

9 ［予約する］を選択します。

選択した画像のプリント予約が解除されます。

ダイレクトプリントについて

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。☞「プリント予約とは」（P.130）

お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（P.150～165）で［凸 標準設定］を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

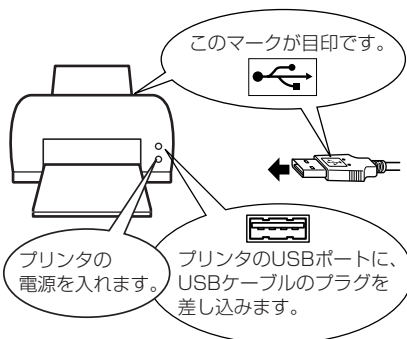
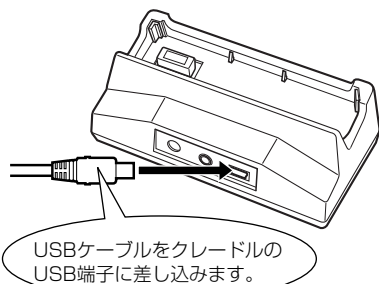
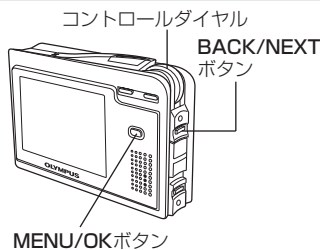
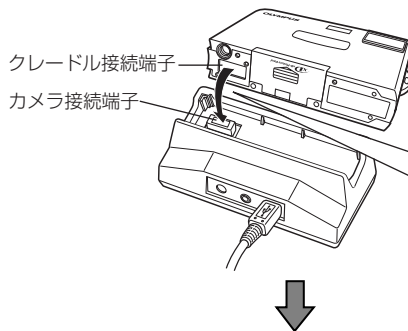
プリンタのアクセサリ

プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

ダイレクトプリントについての注意

- 電源には付属のACアダプタのご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は、十分に充電された電池をお使いください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- ムービーはプリントできません。

カメラをプリンタに接続する

1

プリンタの電源の入れ方および USB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

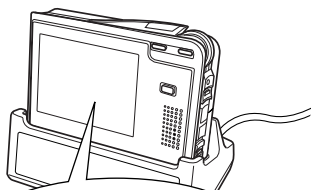
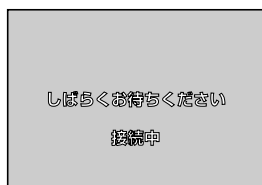
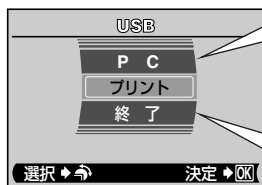
2

3 **カメラをクレードルに取り付けます。**

カメラとクレードルの端子位置を合わせます。

4 ［プリント］を選択します。

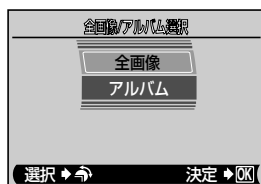
しばらくお待ちください

接続中

［PC］を選択すると、［プリントモード選択］画面は表示されません。USBケーブルを抜いて、手順 **1** からやりなおしてください。

［終了］を選択すると、プリンタに接続されません。 、 モードでは電源が切れ、 モードでは通常の再生に戻ります。

選択画面が消えたときは、POWERスイッチを押して電源を入れなおしてください。または、クレードルからカメラを取り外して、手順 **3** からやりなおしてください。

アルバムに登録されている画像がある場合

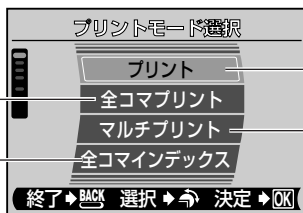
❶ プリントしたい画像を選択します。
[全画像]：
全画像から選択します。「プリントモードを選択する」（☞P.148）へ進みます。
[アルバム]：
アルバムから選択します。手順**5**へ。

❷ アルバムを選択します。

アルバムの代表コマ

選択しているアルバム番号

5 「プリントモードを選択する」（☞P.148）へ進みます。

プリントモードを選択する

「カメラをプリンタに接続する」(P.145)の手順を行うと、カメラの液晶モニタに［プリントモード選択］画面が表示されます。この画面でプリントモードを選択して、プリントします。選択できるプリントモードは、以下のとおりです。

プリントモード選択画面

カード内の全画像を一覧にしてプリントします。☞P.163

全コマインデックスの例

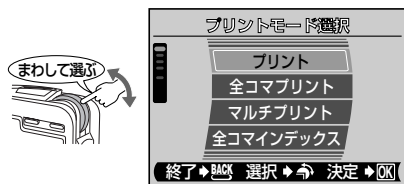
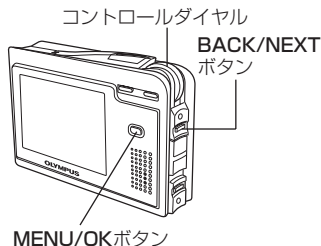
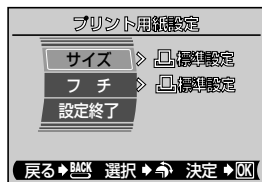
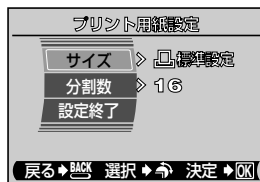
同じ画像を1枚の用紙に複数プリントします。☞P.155

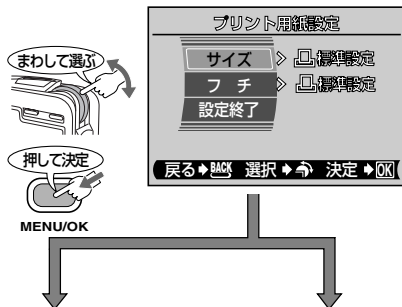
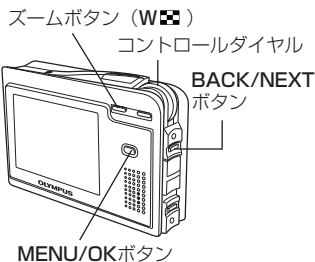
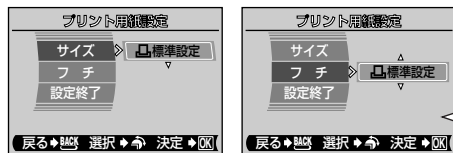
マルチプリントの例

あらかじめプリント予約した内容でプリントします。プリント予約された画像がないと、選択できません。☞P.130

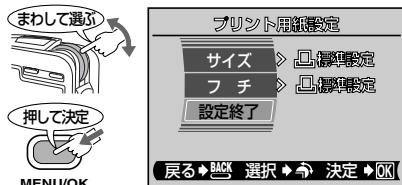
プリントモードや各設定の内容について

使用できるプリントモードや用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくはプリンタの取扱説明書をお読みください。

1 プリントモード選択画面でプリントモードを選択します。

選択したプリントモードの手順に進みます。

[プリント] ☞P.150
[全コマプリント] ☞P.160
[全コマインデックス] ☞P.163
[予約プリント] ☞P.165

[マルチプリント] ☞P.155

選択した画像をプリントする［プリント］

1 プリント用紙の設定項目を選択します。
［サイズ］：用紙サイズを設定します。
［フチ］　：用紙のフチの設定をします。

［サイズ］の設定をします。［フチ］の設定をします。

2 ［設定終了］を選択します。

これらの画面が表示されないときは、サイズとフチの設定は［標準設定］になります。

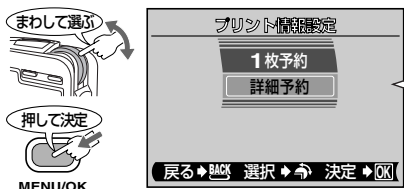
［フチ］の設定
［無し］：用紙いっぱいにプリント。
［有り］：用紙の周囲に余白を付けてプリント。

3 プリントしたい画像を選択します。

プリント枚数・日付・ファイル名の設定をします。

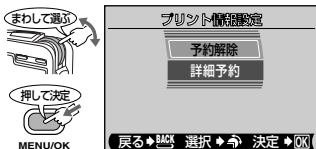
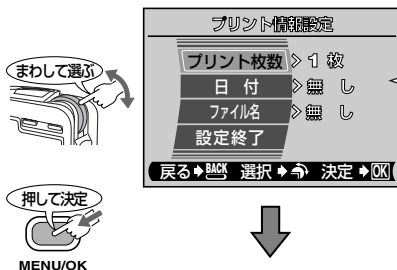
インデックス画面で画像を選択できます。☞「インデックス再生」(P.73)

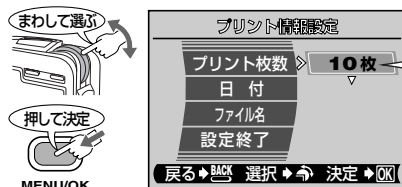
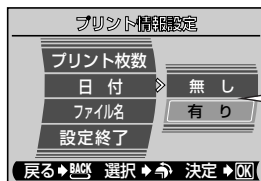
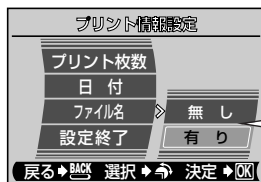
［アルバム］を選択しているときは(☞P.147)、インデックス再生はできません。

1枚の画像も選択（設定）されていない状態でMENU/OKボタンを押すと、表示されている画像が1枚プリントされます。手順**8**へ進みます。

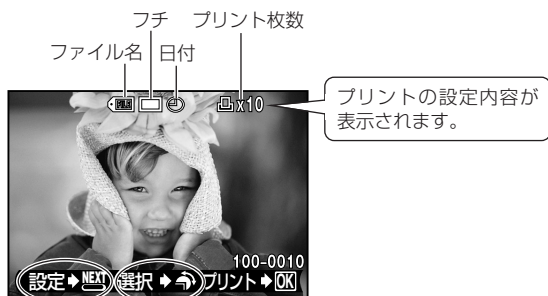
4 予約方法を選択します。

［1枚予約］を選択すると、プリント枚数1枚、日付・ファイル名なしが設定されます。手順**7**へ進みます。

- すでにプリント設定されている画像を選択した場合に表示されます。
- 設定内容の解除／変更をします。

9 PictBridge対応プリンタでプリントする（ダイレクトプリント）

5 詳細予約の設定項目を選択します。

［プリント枚数］：プリント枚数を設定します。枚数は10枚まで設定できます。
［日付］：［有り］を選択すると、画像に日付がプリントされます。
［ファイル名］：［有り］を選択すると、画像にファイル名がプリントされます。

各項目の設定を選択をします。

［プリント枚数］を選択

［日付］を選択

［ファイル名］を選択

6 ［設定終了］を選択します。

7 設定した内容でプリントを実行します。

フチ　プリント枚数

ファイル名　日付

x10

プリントの設定内容が表示されます。

100-0010

設定 NEXT　選択　プリント OK

設定内容を変更します。

押して決定

BACK/NEXT

手順 4 の［予約解除］/［詳細予約］の選択画面に戻ります。

他の画像を選択して、プリントの設定をします。

まわして選ぶ　押して決定

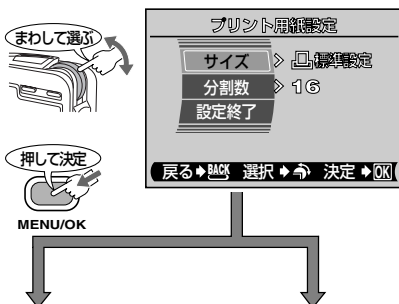
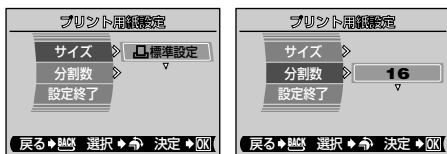
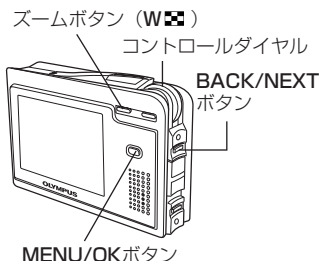
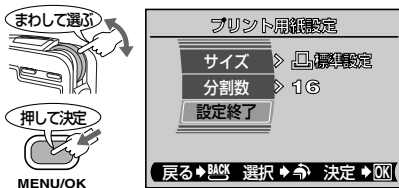
BACK/NEXT

手順 3 へ

8 ［プリント］を選択して、プリントを開始します。

プリントを途中で中止する
プリンタへデータを転送中にMENU/OKボタンを押します。右の画面が表示されたら、［中止］を選択します。

同じ画像を1枚の用紙に複数プリントする［マルチプリント］

1 プリント用紙の設定項目を選択します。
［サイズ］：用紙サイズを設定します。
［分割数］：分割数を設定します。

［サイズ］の設定をします。［分割数］の設定をします。

2 ［設定終了］を選択します。

これらの画面が表示されないときは、サイズは［標準設定］に、分割数はプリンタが対応している最大値に設定されます。

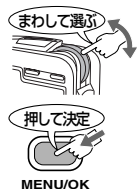
3 プリントしたい画像を選択します。

プリント枚数の設定をします。

インデックス画面で画像を選択できます。☞「インデックス再生をする」(P.73)

［アルバム］を選択しているときは(☞P.147)、インデックス再生はできません。

1枚の画像も選択（設定）されていない状態でMENU/OKボタンを押すと、表示されている画像が1枚プリントされます。手順**8**へ進みます。

4 予約方法を選択します。

［1枚予約］を選択すると、プリント枚数1枚が設定されます。手順**7**へ進みます。

- すでにプリント設定されている画像を選択した場合に表示されます。
- 設定内容の解除／変更をします。

5 プリント枚数を選択します。

［プリント枚数］：プリント枚数を設定します。枚数は10枚まで設定できます。

6 ［設定終了］を選択します。

7 設定した内容でプリントを実行します。

設定内容を変更します。

押して決定
BACK/NEXT

手順**4**の［予約解除］/［詳細予約］の選択画面に戻ります。

他の画像を選択して、プリントの設定をします。

まわして選ぶ
押して決定
BACK/NEXT

手順**3**へ

8 ［プリント］を選択して、プリントを開始します。

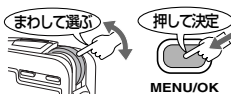
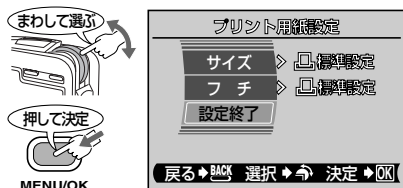
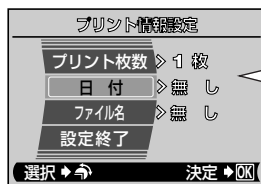
プリントを途中で中止する
プリンタへデータを転送中にMENU/OKボタンを押します。右の画面が表示されたら、［中止］を選択します。

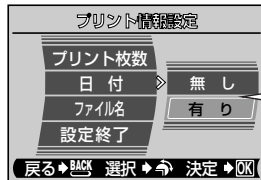
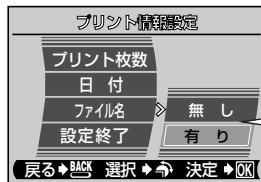
1 プリント用紙の設定項目を選択します。
［サイズ］：用紙サイズを設定します。
［フチ］　：用紙のフチの設定をします。

コントロールダイヤル
BACK/NEXTボタン
MENU/OKボタン

［サイズ］の設定をします。［フチ］の設定をします。

［フチ］の設定
［無し］：用紙いっぱいにプリント。
［有り］：用紙の周囲に余白を付けてプリント。

これらの画面が表示されないときは、設定は［ 標準設定］になります。

2 ［設定終了］を選択します。

3 詳細予約の設定項目を選択します。

［プリント枚数］：プリント枚数は1枚に固定されています。
［日付］：［有り］を選択すると、画像に日付がプリントされます。
［ファイル名］：［有り］を選択すると、画像にファイル名がプリントされます。

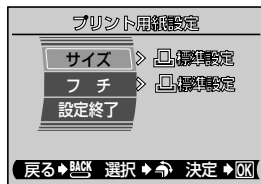
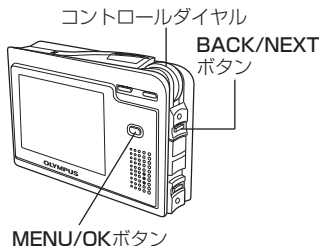
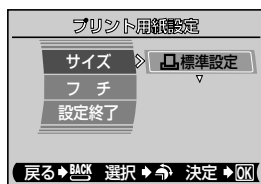
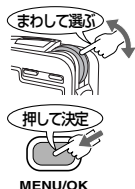
各項目の設定を選択します。

［日付］を選択

［ファイル名］を選択

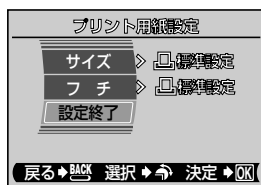
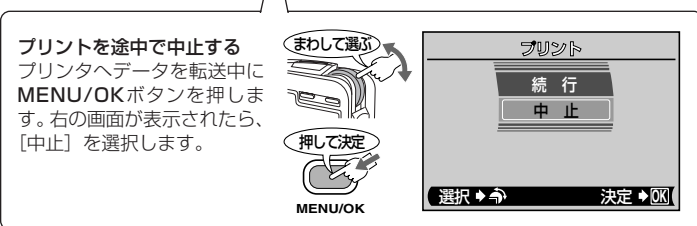
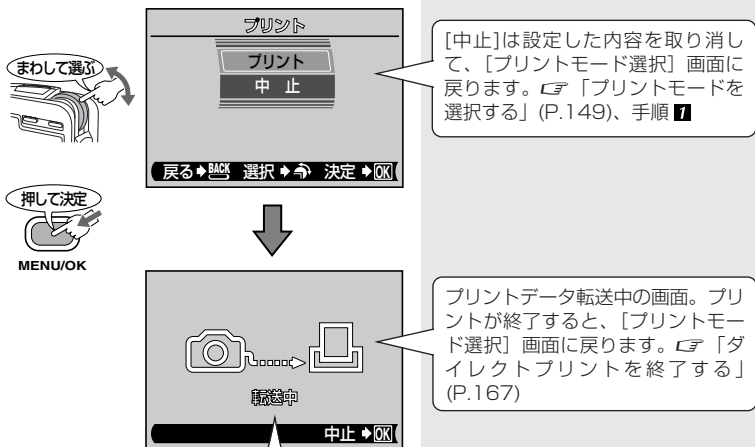
4 ［設定終了］を選択します。

5 ［プリント］を選択して、プリントを開始します。

プリントを途中で中止する
プリンタへデータを転送中にMENU/OKボタンを押します。右の画面が表示されたら、［中止］を選択します。

カード内の全画像を一覧にしてプリントする［全コマインデックス］

1 プリント用紙の設定項目の［サイズ］を選択します。

［サイズ］の設定をします。

この画面が表示されないときは、サイズは［ 標準設定］になります。

2 ［設定終了］を選択します。

3 ［プリント］を選択して、プリントを開始します。

❗ 全コマインデックスについての注意

- 全コマインデックスプリントでは、分割数などの設定はプリンタによって自動的に決められます。
- インデックスの機能に対応していないプリンタでは、全コマインデックスプリントはできません。

プリント予約した内容でプリントする［予約プリント］

1 プリント用紙の設定項目を選択します。
［サイズ］ ：用紙サイズを設定します。
［フチ］ ：用紙のフチの設定をします。

［サイズ］の設定をします。 ［フチ］の設定をします。

2 ［設定終了］を選択します。

［フチ］の設定
［無し］ ：用紙いっぱいにプリント。
［有り］ ：用紙の周囲に余白を付けてプリント。

これらの画面が表示されないときは、設定は［凸 標準設定］になります。

3 ［プリント］を選択して、プリントを開始します。

［中止］は設定した内容を取り消して、［プリントモード選択］画面に戻ります。☞「プリントモードを選択する」(P.149)、手順 1

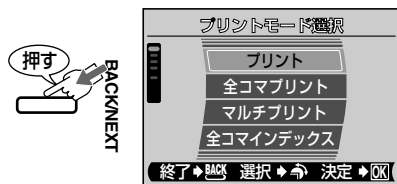
プリントデータ転送中の画面。プリントが終了すると、［プリントモード選択］画面に戻ります。☞「ダイレクトプリントを終了する」(P.167)

プリントを途中で中止する

プリンタへデータを転送中にMENU/OKボタンを押します。右の画面が表示されたら、［中止］を選択します。

ダイレクトプリントを終了する

1 プリントモード選択画面で、**BACK/NEXT**ボタンを押します。

電源が切れます。

プリントが終了したとき、またプリントを途中で中止すると表示されます。

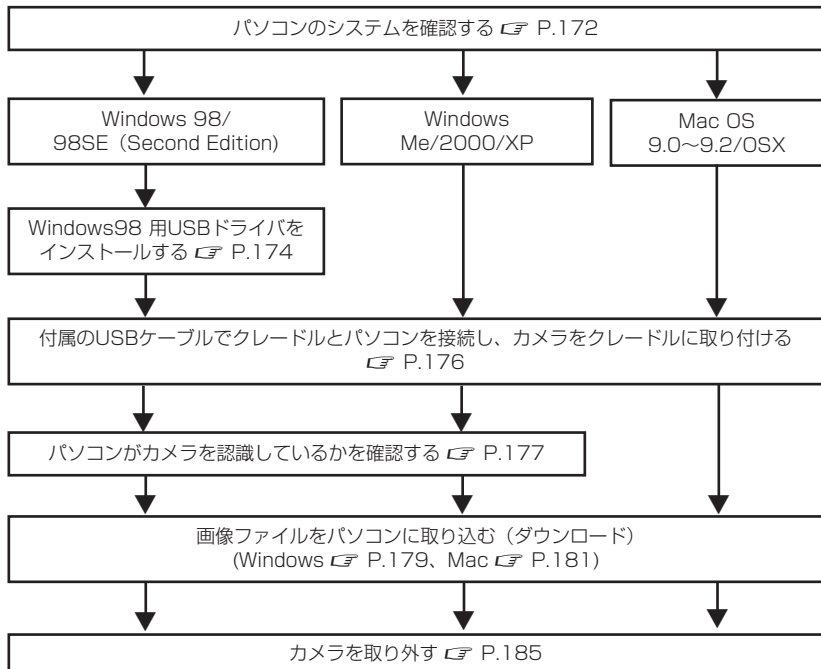
エラーコード表示がでたときは

- ダイレクトプリント設定中およびプリント中にカメラの液晶モニタにエラーコードが表示されたときは、以下のように対応してください。
- 対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。
- その他のエラーコードが表示されたときは、「エラーコード表示」(P.190)をご確認ください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続しなおしてください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。
この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。

10 パソコンに取り込む

操作の流れ

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像をパソコンに取り込むこと（ダウンロード）ができます。お使いのパソコンのOSによっては、はじめて接続する前にはパソコンの設定が必要になります。
以下の手順に従ってすすめてください。
最新の対応OSについては、裏表紙に記載されている「ホームページによる情報提供について」をご参照ください。

以下のOS、仕様についてはUSB端子を装備していても正常な動作の保証はできません。

- Windows 95/NT 4.0
- Windows 95 からアップグレードしたWindows 98/98SE
- Mac OS 8.6以下のバージョン
  （ただし、出荷時にUSB端子、USB MASS Storage Support1.3.5を装備したMac OS 8.6は動作確認がされています。）
- 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
- 出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

注意

- カメラをパソコンに接続して使用するときはACアダプタのご使用をおすすめします。電池をご使用のときは残量が十分にあることをご確認ください。パソコンとの接続中（通信中）は、自動的に電源が切れません。電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中の場合は画像データ（ファイル）を壊すことがあります。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切らないでください。
- USBハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラ（クレードル）を直接接続してください。

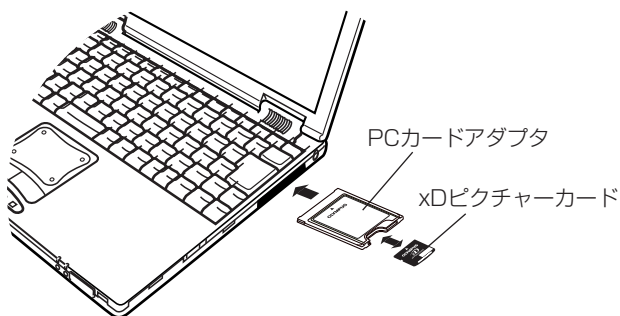
パソコンに取り込んだ画像

- パソコンに取り込んだ画像は、CAMEDIA MasterやPaint Shop Pro、Photoshopなどのグラフィックソフトやインターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator/Microsoft Internet Explorerなど）のJPEGを扱えるアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。市販の画像処理ソフトの使用方法については、対応ソフトの取扱説明書を参照してください。
- 画像処理は、必ずパソコンに取り込んでから行ってください。ソフトウェアによってはファイル（画像）がカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

ムービーをパソコンで見る

パソコンでムービーを再生するには、QuickTimeがインストールされている必要があります。QuickTimeは付属のCD-ROMに収録されています。CD-ROMに収録されているCAMEDIA Masterと同時にインストールすることができます。

USB接続でカメラのデータを取り込めないとき

xDピクチャーカードは別売のPCカードアダプタをお使いいただくと、パソコンへの画像の取り込みが可能なOSもあります。
詳しくは裏表紙に記載の「ホームページによる情報提供について」をご参照ください。

OSを確認する

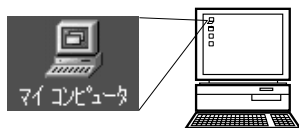
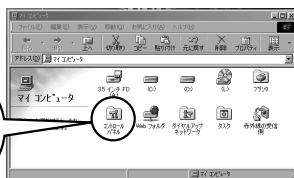
カメラをパソコンへ接続する前にお確かめください。ご使用のパソコンによってはじめて接続したときの操作が異なります。

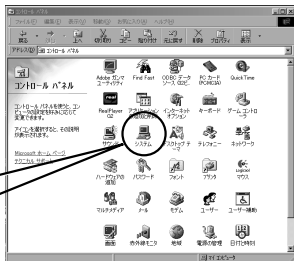
Windows（DOS/V・PC/AT 互換機）の場合

1 **デスクトップの［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックします。**

デスクトップにない場合は［スタート］メニューから［設定］→［コントロールパネル］をクリックしてください。

または

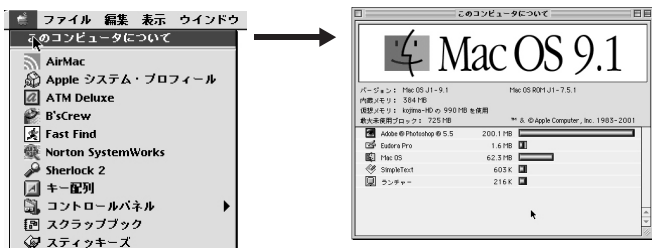
［スタート］メニューから［マイコンピュータ］を右クリックして表示されたメニューで、［プロパティ］をクリックします。手順**4**へ進みます。

2 **［コントロールパネル］アイコンをダブルクリックします。**

3 **［システム］アイコンをダブルクリックします。**

フォルダ内のファイル表示方法はWindowsのバージョンによって異なる場合があります。アイコンが表示されないときはウインドウ左の［すべてのコントロールパネルのアイコンを表示する］をクリックしてください。

4 **右図のような画面が表示されます。お使いのシステム（OS）をご確認ください。**

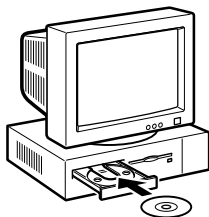
Windows 98/98SE/Me/2000Professional/XPであることをご確認ください。
確認が終了したら［OK］をクリックして画面を閉じてください。

Windows 98/98SEをお使いの場合は、「Windows 98用USBドライバをインストールする」（P.174）に進んでください。

Mac OS（Macintosh）の場合

メニューバー上のアップルメニューから［このコンピュータについて］（または［このマックについて］）を選択します。
Mac OS 9.0～9.2またはOS Xであることをご確認ください。

Windows 98用USBドライバをインストールする（Windows 98/98SEをご使用の場合）

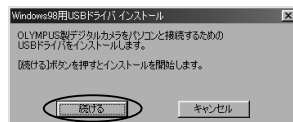
Windows 98/98SEをお使いの方は、最初にUSBドライバをインストールする必要があります。手順に従ってUSBドライバをお使いのパソコンにインストールしてください。正しくインストールできたら、2回目の接続からは必要ありません。
Windows Me/2000/XPをお使いの方は、USBドライバのインストールが自動的に行われますので、この手順は不要です。
☞「カメラをパソコンに接続する」(P.176)

1 **付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れます。**
自動的にメニュー画面が表示されます。

2 **メニュー画面左側の［USBドライバーのインストール］をクリックします。次に右側下の［USBドライバーインストール］をクリックします。**

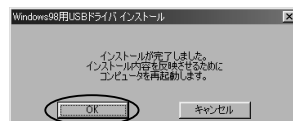
自動的に画面表示されない場合は、スタートメニューから［ファイル名を指定して実行］を選択し、［CD-ROMドライブ名：￥Information.exe］と入力して実行してください。

CD-ROMのドライブ名
CD-ROMのドライブ名はパソコンによって異なります。わからないときはデスクトップのマイコンピュータをダブルクリックして確認します。

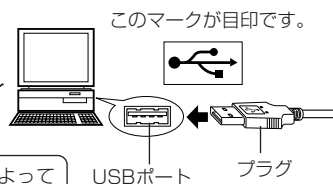
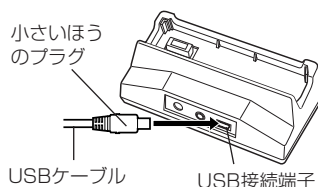
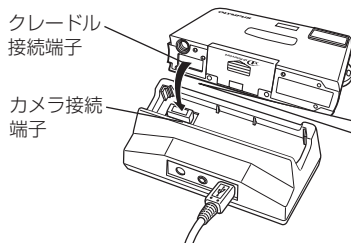
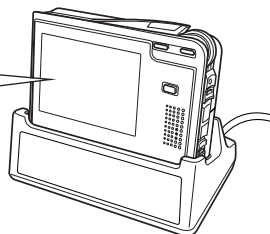
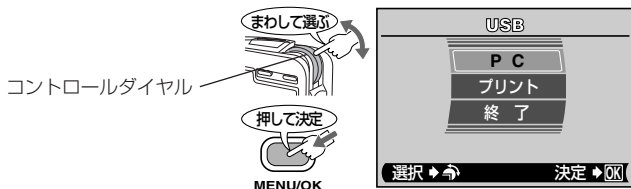
3 ［続ける］をクリックします。

ドライバのインストールが始まります。
インストールが終了すると、パソコンを再起動させる画面が表示されます。

4 ［OK］をクリックします。

パソコンが再起動します。インフォメーションディスクのメニュー画面が表示されていたら、［終了する］をクリックしてCD-ROMドライブからCDを取り出してください。

10
パソコンに取り込む

カメラをパソコンに接続する

Windows 98/98SEをお使いの方は、はじめてパソコンと接続する前に必ずUSBドライバのインストールを行ってください。☞「Windows 98用USBドライバをインストールする」（P.174）

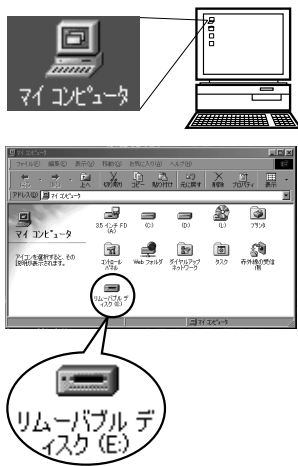
1 **パソコンのUSBポートに、カメラに付属のUSBケーブルを差し込みます。**

2 **クレードルのUSB接続端子に、カメラに付属のUSBケーブルを差し込みます。**

3 **カメラをクレードルに取り付けます。**

4 コントロールダイヤルをまわして［PC］を選択し、MENU/OKボタンを押します。

●選択画面が消えたときは、POWERスイッチを押して電源を入れなおしてください。または、クレードルからカメラを取り外して、手順**3**からやりなおしてください。

5 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

●Windows 98/98SE/Me/2000の場合

はじめてカメラとパソコンを接続したときは、自動的にパソコンがカメラを認識する動作を行い終了のメッセージが表示されます。

［OK］をクリックしてメッセージを終了してください。

カメラは［リムーバブルディスク］として認識されます。

●Windows XPの場合

パソコンに接続すると、画像ファイルの操作を選択する画面が表示されます。[コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] を選択して画面の指示に従って操作してください。
この画面をキャンセルしてWindows 98などと同様の方法で画像を取り込んだり、CAMEDIA Masterなどの画像編集・管理ソフトウェアを使用することもできます。詳細はCAMEDIA Masterの取扱説明書をご覧ください。

●Mac OS 9の場合

デスクトップに [名称未設定] アイコンが表示されます。表示されない場合は、カメラの電源を切って、パソコンとカメラの接続をやり直してください。

●OS Xの場合

Apple Image Captureアプリケーションが自動的に起動します。デスクトップに [NO_NAME] アイコンが表示されます。

パソコン接続についての注意

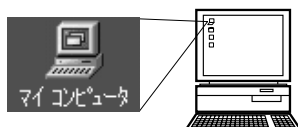
パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

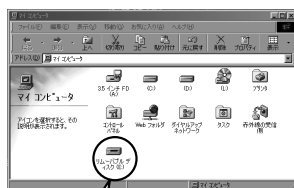
画像を取り込む

パソコンに画像の取り込み（ダウンロード）をします。

Windows 98/98SE/Me/2000/XPの場合

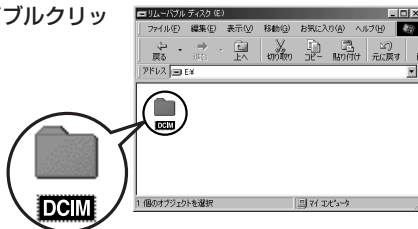
1 **パソコンのデスクトップの［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックします。**

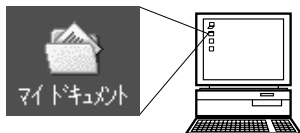
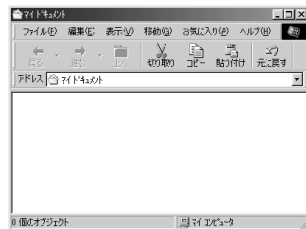
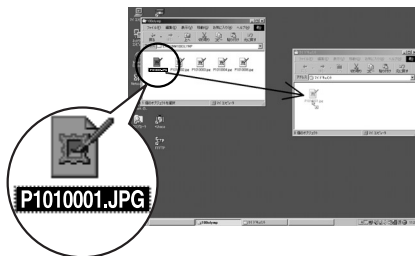
Windows XPをお使いの場合は［スタートメニュー］の中にあります。

2 **［リムーバブルディスク］アイコンをダブルクリックします。**

カメラが正しく認識されていればカメラは［リムーバブルディスク］としてアイコンが表示されています。

［リムーバブルディスク］アイコンをダブルクリックした後、［準備ができていません］などのメッセージが表示された場合は、次のような問題が考えられます。

→ カメラの電源（ACアダプタの接続状態、電池の残量）に問題がある。
ACアダプタの接続状態、電池の残量をご確認ください。

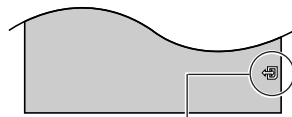
→ カメラにカードが入っていない。または、カードに問題がある。
カードの画像が、カメラの液晶モニタで表示できることをご確認ください。

3 **［DCIM］フォルダのアイコンをダブルクリックします。**

4 **［100OLYMP］フォルダのアイコンをダブルクリックします。**
画像ファイル（JPEGファイル）が表示され、[P1010001.JPG]などのアイコンが確認できます。

5 **デスクトップの［マイドキュメント］アイコンをダブルクリックします。**
デスクトップにない場合は、［スタート］メニューから［エクスプローラ］を選択して、エクスプローラのウィンドウを表示し、［マイドキュメント］アイコンをダブルクリックします。

［マイドキュメント］フォルダのウィンドウが開きます。

6 **パソコンに取り込みたい画像ファイル（ここではP1010001.JPG）のアイコンをマイドキュメントフォルダにドラッグ&ドロップします。**
カメラの画像がパソコン（マイドキュメント）に取り込まれます。

画像ファイルの確認

パソコンに取り込んだ画像ファイルは、他のファイルと同じようにコピーしたり他のフォルダに移動することができます。また、パソコンに画像ファイルの関連付けが設定されていると、パソコンに取り込んだ画像ファイルをダブルクリックして確認することができます。画像を適当なサイズで見たり、画像の加工などを行う場合は、別途、JPEG対応の画像加工ソフトか、付属のソフトウェアを使用します。CD-ROMに収録されているCAMEDIA Masterでも同じことができます。

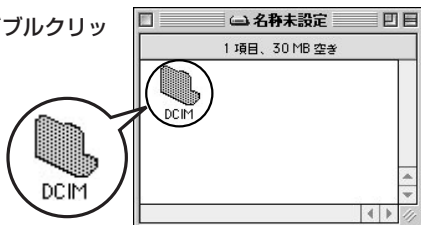
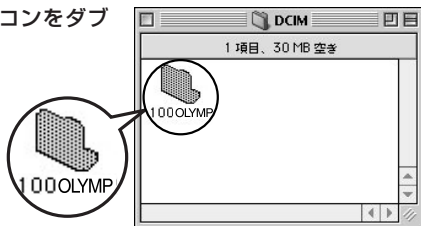
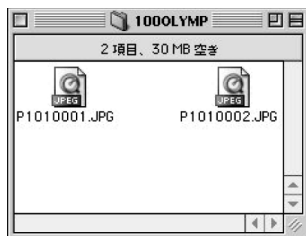
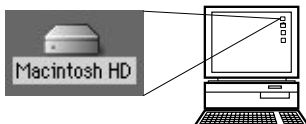
! 画像取り込みについての注意

画像取込み中にカメラのカードアクセスマークが点滅します。点滅している間は絶対にクレードルからカメラを取り外したり、USBケーブルを抜いたりしないでください。データが壊れる可能性があります。

Macintoshの場合

画像をパソコン（ここでは、ハードディスク）へ取り込みます。

1 カメラと接続することによってデスクトップに表示された［名称未設定］アイコンをダブルクリックします。

新たな［名称未設定］アイコンが表示されない場合、または［名称未設定］アイコンをダブルクリックした後、［準備ができていません］などのメッセージが表示された場合は、次のような問題が考えられます。
→ カメラの電源（ACアダプタの接続状態、電池の残量）に問題がある。
→ カメラにカードが入っていない。または、カードに問題がある。
　撮った画像が、液晶モニタで確認できることをご確認ください。
→ パソコンとデジタルカメラのUSBケーブルでの接続状態に問題がある。

2 ［DCIM］フォルダのアイコンをダブルクリックします。

3 ［100OLYMP］フォルダのアイコンをダブルクリックします。

画像ファイル（JPEGファイル）が表示され、［P1010001.JPG］などのアイコンが確認できます。

4 デスクトップの［ハードディスク］アイコンをダブルクリックします。

［ハードディスク］フォルダのウィンドウが開きます。

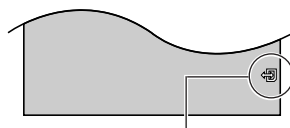
5 **パソコンに取り込みたい画像ファイル(ここではP1010001.JPG)のアイコンをドラッグ&ドロップします。**

カメラの画像がパソコン（ハードディスク）に取り込まれます。

画像ファイルの確認

パソコンに取り込んだ画像ファイルは、他のファイルと同じようにコピーしたり他のフォルダに移動することができます。また、パソコンに画像ファイルの関連付けが設定されていると、パソコンに取り込んだ画像ファイルをダブルクリックして確認することができます。画像を適当なサイズで見たり、画像の加工などを行う場合は、別途、JPEG対応の画像加工ソフトか、付属のソフトウェアを使用します。CD-ROMに収録されているCAMEDIA Masterでも同じことができます。

❗ 画像取り込みについての注意

画像取込み中にカメラのカードアクセスマークが点滅します。点滅している間は絶対にクレードルからカメラを取り外したり、USBケーブルを抜いたりしないでください。データが壊れる可能性があります。

Mac OS Xの場合

パソコンがカメラを認識すると、Apple Image Captureアプリケーションが起動します。

1 **［ダウンロード先:］から、画像を取り込む（ダウンロードする）フォルダを選択します。**

2 **画像をすべて取り込む場合は、［すべてをダウンロード］をクリックします。選択した画像のみ取り込む場合は、［一部をダウンロード］をクリックしてパソコンに取り込む画像を選択します。**
カメラから画像が取り込まれます。

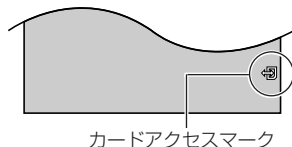
OS9と同様の操作をする

OS9等と同様の操作で画像を取り込む場合は、［ファイル―閉じる］を選択してApple Image Captureを閉じてください。このときカメラは［unlabeled］と表示されています。

Apple Image Capture使用についての注意

Apple Image Captureを使用した場合、パソコンに取り込まれた画像を再びカードに転送すると、カメラで再生できないなどの問題が発生する場合があります。

カメラを取り外す

1 カメラのカードアクセスマークが消えていることを確認します。

2 Windows 98/98SEの場合

❶［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックして、［リムーバブルディスク］を右クリックし、メニューを表示させます。
❷ メニューの［取り出し］をクリックします。

Windows Me/2000/XPの場合：

❶ システムトレイに表示されている ［ハードウェアの取り外し］アイコンをクリックします。
❷［ドライブ(E)を停止します］をクリックします。
❸［デバイスは安全に取り外すことができます］が表示されたら、［OK］をクリックします。

Macintoshの場合：

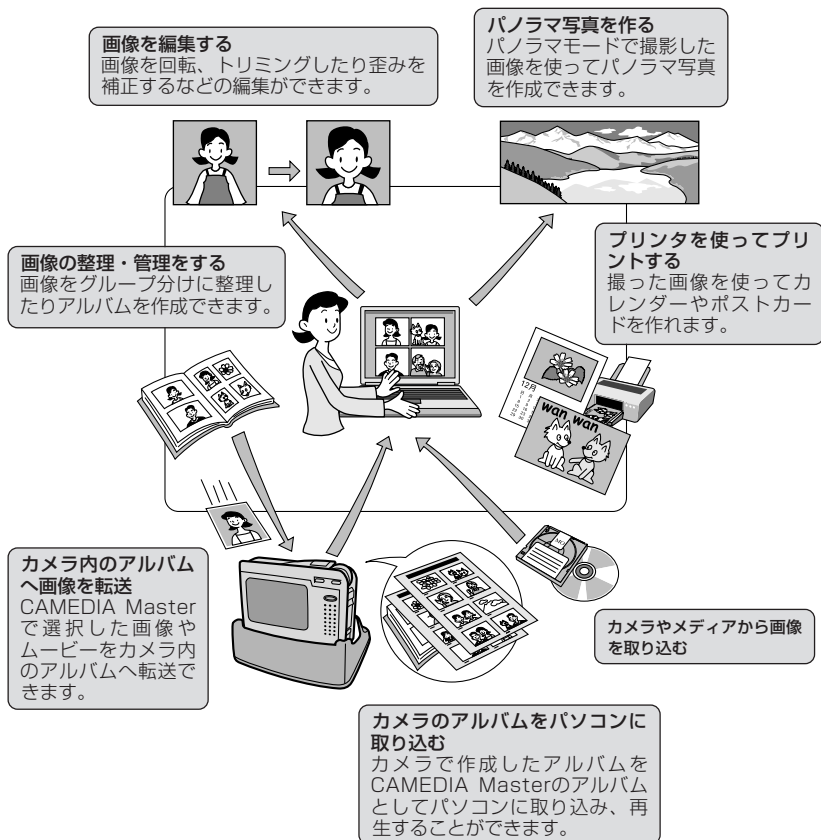
❶ デスクトップの［名称未設定］（または［NO_NAME］）アイコンを［ごみ箱］にドラッグします。

❷ パソコンとの接続中を示すアイコンが消えます。

カメラ取り外しについての注意

Windows Me/2000/XPの場合：［ハードウェアの取り外し］をクリックした際、［カメラを停止できません］という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、［ハードウェアの取り外し］の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

CAMEDIA Masterを使うとできること

付属のCD-ROMには、画像編集・管理ソフトCAMEDIA Masterが収録されています。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。取り扱い方法は、CAMEDIA Masterをインストールして［ヘルプ］をご覧ください。

CAMEDIA Masterは付属のCD-ROMに収録しています。
使い方については、CAMEDIA Masterの取扱説明書をご覧ください。

ACアダプタ

このカメラはクレードルを使って電池の充電をします。クレードルと家庭用電源の接続にはACアダプタを使用します。 ☞P.25
付属のACアダプタはDC入力4.8Vを指定するオリンパスデジタルカメラ専用です。
家庭用電源につなぐと、室内で長時間オリンパスデジタルカメラをお使いになれます。
海外でご使用の場合は、その地域の電源コンセントの形状にあった変換プラグが別途必要になります。変換プラグについては、旅行代理店などでご相談ください。

ACアダプタについての注意

- 付属のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ずAC100Vでご使用ください。
- ACアダプタは室内専用です。
- 接続コードや電源コードをプラグやコンセントから抜くときは、必ずカメラの電源を切ってから行ってください。カメラ内の画像やカメラの設定値、機能にトラブルを生じる場合があります。
- 使用中、ACアダプタが熱くなることがありますが、故障ではありません。
- ACアダプタ内部で発信音がすることがありますが、故障ではありません。
- ラジオの近くで使用すると雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

主な仕様

入力容量　：AC100〜240V、50/60Hz、23〜32VA、13W
出力容量　：DC4.8V、2.0A
使用温度範囲：0〜40℃
保存温度範囲：−10〜70℃
大きさ　：47mm x 72mm x 27mm（横／縦／高さ）
質量　：約160g（電源コード含まず）
接続コード　：約1.8m（日本国内用）

仕様・性能は、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。取扱説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。

カード

カード（xDピクチャーカード）はデジタルカメラ用に開発された超小型記録媒体で、xDピクチャーカード対応のデジタルカメラでの使用が可能です。またPC Card Standard−ATAに準拠したPCカードとしてパソコンで使用することもできます。

カードのお取扱いについての注意

- 乳幼児の手の届くところに置かないでください。あやまって飲み込む恐れがあります。
- **間違った扱い方をすると内部データが破壊されます。**以下のことに注意してください。破壊されたデータの復旧はできません。
  - 曲げたり衝撃を与えない。
  - 発熱物・発火物の近くや高温多湿なところ、埃の多いところで使ったり保管しない。
  - 水に濡らさない。
  - 端子部に直接触れたり金属物をあてない。
  - データの書き込み／読み込み中に電源を切ったり、衝撃を与えたり、カードや電池を取り出したりしない。
- カードには寿命があり、長期間使用すると書き込みや消去ができなくなります。その場合は新しいカードとお取り替えください。
- パソコンなど他の機器でフォーマットしたカードは、必ず使用するカメラでフォーマットしてお使いください。

主な仕様

メモリーの種類	：NAND型フラッシュEEP-ROM
動作・保管環境	：温度　0～55℃（動作） −20～65℃（保管） 湿度　95%以下
駆動電圧	：3V (3.3V)
外形寸法	：約20mm (縦) ×25mm (横) ×1.7mm (厚さ)

エラーコード表示

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
! カードを認識できません	カードが入っていません、または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。 それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
! このカードは使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。新しいカードを入れてください。
! 書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。 再度パソコンを使って解除してください。
! 撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
! カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約など新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
画像が記録されていません	カードに画像が記録されていないため再生できません。	カードに画像が入っていません。 撮影してから再生してください。
! この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードカバーが開いています	電池／カードカバーが開いています。	電池／カードカバーを閉めてください。
日時を設定してください。	日時が設定されていません。	日時を設定してください。
電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。

●準備操作

カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	カメラをしばらく放置すると自動的に電源が切れます。POWERスイッチを押して、カメラの電源を入れてください。	P.28
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	P.25
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	—
パソコンに接続している	パソコンとの接続中、カメラは動作しません。切り離してからご使用ください。	—

●撮影

シャッターボタンを押しても撮影ができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	P.25
再生モードになっている	モードスイッチを ▶ 以外にしてください。	P.28
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、⚡マークの点滅が終わってから撮影してください。	—
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.91
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（「電池残量がありません」と表示された後に液晶モニタが消灯した）	電池を充電してください。（カードアクセスマークが点滅中は、消灯するまでお待ちください。	P.25
メモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.21
カードに問題がある	「エラーコード表示」でご確認ください。	P.190

液晶モニタが消灯した		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	カメラをしばらく放置すると自動的に電源が切れます。POWERスイッチを押して、カメラの電源を入れてください。	P.28

ピント合わせのとき画面の色が乱れる		
原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを半押ししたとき、液晶モニタに表示されている画面の色が乱れることがある	故障ではありません。ピントが合うと正しい色で表示されます。	—

フラッシュが発光しない		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を［発光禁止］以外に設定してください。	P.56
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュを［強制発光］に設定してください。	P.56
モードスイッチが 🎥 に設定されている	🎥 ではフラッシュはご使用になれません。モードスイッチを 📷 にしてください。	P.28
［シーン選択］が［シーン］に設定されている	設定された撮影シーンによってはフラッシュをご使用になれない場合があります。「撮りたいものに合わせて設定する」でご確認ください。	P.40

電池の消耗が早い		
原因	こうしましょう	参照ページ
寒い中で使用している	低温下では電池の性能が低下します。カメラを防寒具や衣類の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。	—
電池残量が正しく表示されていない	カメラの消費電力が大きく変化する際、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。電池を充電してください。	P.25

液晶モニタが見にくい		
原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの画像に縦スジが入る	晴天下のような明るい被写体に向けると、画像に縦スジが入ることがあります。故障ではありません。	—
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	［カメラ設定］メニューの［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調整してください。	P.124
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	—

画像に記録される日付が正しくない		
原因	こうしましょう	参照ページ
日時が設定されていない	［カメラ設定］メニューの［日時設定］で日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.126
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時設定が初期状態（設定されていない状態）に戻ります。もう一度、日時を設定してください。	P.126

ピントが合わない		
原因	こうしましょう	参照ページ
AFが苦手な被写体である	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.37
被写体が近すぎる	被写体との距離が50cm以内のときは［マクロ］、30cm以内のときは、［スーパーマクロ］に設定してください。	P.46
レンズに水滴がついているまたはレンズが汚れている	レンズの水滴や汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	P.198

●画像の再生

液晶モニタ上で再生できない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が入っていない	カメラをしばらく放置すると自動的に電源が切れます。POWERスイッチを押して、カメラの電源を入れてください。	P.28
撮影モードになっている	モードスイッチを▶にしてください。	P.28、70
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	［カメラ設定］メニューの［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調整してください。	P.124
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	—
カードに問題がある	「エラーコード表示」でご確認ください。	P.190
テレビに接続している	AVケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。AVケーブルを抜くか、カメラをクレードルから外してください。	P.85

1 コマ消去・全コマ消去ができない

原因	こうしましょう	参照ページ
画像がプロテクトされている	［プロテクト］を［オフ］に設定してください。	P.90
画像がアルバムに登録されている	［アルバム登録］を解除してください。	P.109

カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラの映像出力信号が間違っている	使用する地域の映像信号に［ビデオ出力］の設定を合わせてください。	P.128
テレビの映像信号の設定が間違っている	テレビをビデオ（映像）入力モードにしてください。	—

撮影した画像が明るすぎる

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュの設定が［強制発光］になっていた	［強制発光］以外のフラッシュモードに設定して、撮影してください。	P.56
中央部が暗かった	中央部に暗いものがあると周辺部が明るく写ります。露出補正をアンダー（－）側に設定してください。	P.63

撮影した画像が暗い

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを指で覆ってしまった	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.29
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.57
フラッシュが［発光禁止］になっていた	フラッシュを［発光禁止］以外に設定してください。	P.56
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを［強制発光］に設定するか、測光を［スポット］に設定して撮影してください。	P.56、62
雪景色などの明るい（白い）被写体を撮ると、実際より暗く見える画像が撮れる	［ビーチ＆スノー］に設定するか、露出補正をオーバー（＋）側に設定してください。	P.48、63
中央部が明るかった	中央部に明るいものがあると、全体が暗く写ります。露出補正をオーバー（＋）側に設定してください。	P.63

撮影した画像の色がおかしい

原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した	照明に合ったホワイトバランスを設定してください。	P.66
撮るものに白い部分がなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュを［強制発光］に設定して撮影してください。	P.56
ホワイトバランスの設定を間違えた	光源に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定しなおしてください。	P.66

画像の一部が暗い

原因	こうしましょう	参照ページ
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.29

ピントが合っていない

原因	こうしましょう	参照ページ
AF が苦手な被写体を撮影した	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.37
フラッシュが必要な暗い状況で［発光禁止］に設定していた（手ぶれ）	フラッシュを［発光禁止］以外に設定してください。 ［発光禁止］で撮影する場合には、シャッター速度が遅くなります。三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.56
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。 シャッター速度が遅くなるほど手ぶれが起きやすくなります。夜景撮影やフラッシュを［発光禁止］で撮影するときは、三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.29
被写体が近すぎた	被写体との距離が50cm以内のときは［マクロ］（ ）、30cm以内のときは［スーパーマクロ］（ ）に設定してください。	P.46
レンズに水滴がついていたまたはレンズが汚れていた	レンズの水滴や汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。	P.198

液晶モニタが見にくい		
原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	［カメラ設定］メニューの［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調整してください。	P.124
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	—

●パソコンやプリンタとの接続

プリンタと接続できない		
原因	こうしましょう	参照ページ
USBケーブルでプリンタと接続したあと液晶モニタで［PC］を選択した	USBケーブルを抜いて、最初の手順からやり直してください。	P.145
プリンタがPictBridgeに対応していない	ご使用のプリンタの取扱説明書をご確認ください。またはプリンタのメーカーにお問い合わせください。	P.144

パソコンでカメラが認識されない		
原因	こうしましょう	参照ページ
USBドライバがインストールされていない	Windows 98/98SE ではUSBドライバのインストールが必要です。	P.174
カメラの電源が切れている	POWERスイッチを押して、カメラの電源を入れてください。	P.28

カメラのお手入れと保管

●カメラのお手入れ

1 **POWERスイッチを押して、カメラの電源を切ります。**
液晶モニタが消灯していることを確認してください。

2 **電池とカードを取り出します。** ☞P.24、27
ACアダプタを使用しているときは、まずカメラをクレードルから取り外します。ACアダプタの接続コードプラグをクレードルから抜き、電源プラグをコンセントから抜きます。

3 **カメラの外側**
→ 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタ
→ 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ
→ レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭きます。

カード
→ 乾いた柔らかい布で拭きます。

●クレードルのお手入れ

- 端子部分はブロワー（市販）でほこりを吹き払います。絶対に濡らさないでください。

●カメラの保管

- カメラを長期間使用しないときは、電池とカードを取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

! カメラのお手入れについての注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やクレードルをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 薬品を扱うような場所での保管は腐食などの原因になるため避けてください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満１ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載の W マークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。
- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
  パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

- **お名前（フリガナ）**
- **連絡先：** 郵便番号
  ご住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
  電話番号／FAX
  E-mail
- **製品名（型番）：**
- **シリアル番号（製品底面に記載されています）：**
- **お買い上げ日：**

※以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。

- **ご使用のパソコンの種類：**
  パソコンメーカー・型番等
- **メモリの容量　ハードディスクの空き容量：**
- **OS名とバージョン：**
  （Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容
  （Windows）コントロールパネル－システム―デバイスマネージャーの内容
- **その他接続されている周辺機器名：**
- **問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：**
- **問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：**

仕様

カメラ

形式	：デジタルカメラ（記録・再生型）
記録方式	
静止画	：デジタル記録、JPEG（DCF準拠）
対応規格	：Exif2.2、DPOF、PRINT Image Matching II、PictBridge
動画	：QuickTime Motion JPEGに準拠
記録媒体	：xDピクチャーカード（16～512MB）
記録コマ数	：静止画
（16MB使用時）	約20枚　（スーパーハイ：2048×1536ピクセル）
	約33枚（ハイ：1600×1200ピクセル）
	約58枚（PCモニタ：1024×768ピクセル）
	約99枚（Eメール：640×480ピクセル）
	ムービー
	約41秒（スタンダード：320×240（15コマ／秒））
	約149秒（ロングプレイ：160×120（15コマ／秒））
カメラ部有効画素数	：320万画素
レンズ	：オリンパスレンズ5.8～17.4mm（35mmフィルム換算38～114mm相当）、F2.9～4.9
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光方式、スポット測光
シャッター	：1/2～1/1000秒（シーンにより最長4秒）
撮影範囲	：0.5m～∞（通常）
	0.3m～∞（マクロ撮影時）
液晶モニタ	：2.5型（インチ）TFTカラー液晶、215,000画素
使用環境	
温度	：0～40℃（動作時）／－20～60℃（保存時）
湿度	：30～90%（動作時）／10～90%（保存時）
電源	：専用リチウムイオン充電池または専用ACアダプタ
大きさ	：幅94mm×高さ67mm×厚さ22mm（突起部を除く）
質量	：約160g（電池／カード別）

クレードル

コネクタ	：DC入力端子、USB端子、A/V出力端子
使用環境	：10～40℃
大きさ	：幅108mm×高さ53.5mm×奥行59mm
質量	：約90g

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

画素
画像を形成する最小単位の点の数。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

デジタルESP測光（electro selective pattern）
CCD出力によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。このカメラでは、測光でオートを選択することで機能します。

露出
シャッターを開いて、光をとり込むこと。また、画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光を受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントショップやプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

NTSC／PAL（National Television Systems Committee／Phase Alternating Line）
テレビの映像信号方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

PictBridge

異なるメーカーや機種に関係なく、パソコンを介さずに直接接続されたデジタルカメラとプリンタによるダイレクトプリントが可能な標準規格。

TFT（thin-film transistor）

カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

●撮影メニュー（ モード）

メニュー項目		選択肢	参照ページ
シーン選択		Pオート、シーン	P. 40
リセット		実行、中止	P. 69
フラッシュ*1		オート発光、赤目軽減、強制発光、発光禁止	P. 56
セルフタイマー*1		オン、オフ	P. 60
画質モード		スーパーハイ*1、ハイ*1、ＰＣモニタ、Ｅメール	P. 64
ホワイトバランス*2		オート、晴天、曇天、電球、蛍光灯	P. 66
露出補正*2		+2.0～0.0～−2.0	P. 63
測光*2		オート、スポット	P. 62
連写*1		オン、オフ	P. 59
デジタルズーム*1		オン、オフ	P. 58
AF方式*1		オート、スポット	P. 61
録音		オン、オフ	P. 67
カードフォーマット		実行、中止	P. 101
カメラ設定	レックビュー	オフ、オン	P. 115
	(言語)	日本語、ENGLISH、FRANCAIS、DEUTSCH	P. 118
	起動画面	オフ、1、2	P. 119
	シャッタ音	オフ、1、2	P. 120
	操作音	オフ、1、2	P. 122
	ビープ音	オフ、小、大	P. 123
	ピクセルマッピング		P. 129
	モニタ調整	+7～0～−7	P. 124
	日時設定		P. 126
	ビデオ出力	NTSC、PAL	P. 128

*1：設定された撮影シーンによっては選択できない場合があります。
*2：［シーン選択］が［シーン］に設定されている場合は表示されません。
（網掛け）：初期設定

●撮影メニュー（🎥 モード）

メニュー項目			選択肢	参照ページ
リセット			実行、中止	P. 69
画質モード			スタンダード、ロングプレイ	P. 64
ホワイトバランス			オート、晴天、曇天、電球、蛍光灯	P. 66
露出補正			+2.0～0.0～−2.0	P. 63
測光			オート、スポット	P. 62
デジタルズーム			オフ、オン	P. 58
カードフォーマット			実行、中止	P. 101
カメラ設定	(言語)		日本語、ENGLISH、FRANCAIS、DEUTSCH	P. 118
	起動画面		オフ、1、2	P. 119
	操作音		オフ	P. 122
			1	
			2	
	ビープ音		オフ、小、大	P. 123
	ピクセルマッピング			P. 129
	モニタ調整		+7～0～−7	P. 124
	日時設定			P. 126
	ビデオ出力		NTSC、PAL	P. 128

（網掛け）：初期設定

●再生メニュー（▶ モード）

メニュー項目	選択肢	参照ページ
ムービー再生*1	再生	P. 86
	コマ送り／戻し	
	早送り／戻し	
	中止	
アルバム再生終了*3		P. 106
アルバム再生	アルバム1 ～ アルバム12	P. 106
スライドショー	スタート	P. 107
	画像選択*4	
	スタイル選択	
並び替え*3		P. 108
解除*3	この画像を解除	P. 109
	選択解除	
全コマ解除*3	実行、中止	P. 111
アルバム登録*4	アルバム1～アルバム12	P. 102
消去*4	この画像を消去	P. 91
	選択消去	
プロテクト*4	オフ、オン	P. 90
プリント予約*2		P. 130
録音*2*4		P. 97
インデックス作成*1*4	新規作成、中止	P. 99
回転表示*2*4	+90°、0°、−90°	P. 84
画像編集*2*4	モノクロ作成	P. 95
	セピア作成	
	リサイズ	

次ページに続く

メニュー項目			選択肢	参照ページ
全コマ消去＊4			実行、中止	P. 94
カードフォーマット＊4			実行、中止	P. 101
カメラ設定	情報表示		オン、オフ	P. 116
	(言語アイコン)		日本語、ENGLISH、FRANCAIS、DEUTSCH	P. 118
	起動画面		オフ、1、2	P. 119
	再生音量		オフ、小、大	P. 121
	操作音		オフ	P. 122
			1	
			2	
	ビープ音		オフ、小、大	P. 123
	モニタ調整		＋7～0～−7	P. 124
	インデックス表示		4、9、16、25	P. 125
	日時設定			P. 126
	ビデオ出力		NTSC、PAL	P. 128

＊1：静止画のときは表示されません。
＊2：動画のときは表示されません。
＊3：アルバム再生時のみ表示。
＊4：アルバム再生時は表示されません。

（網掛け）：初期設定
（初期設定：中止、中止、オフ、日本語、1、小、1、小、0、9、NTSC）

注意

設定された撮影シーンによって、初期設定が変わることがあります。

索引

12 その他

オリンパス株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1　新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を、当社のホームページで提供しております。

オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp/

より「お客様サポート」→「映像・情報分野」→「デジタルカメラ／プリンタ」へ進み、ご利用ください。

● 電話等でのご相談窓口

カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル **0120-084215**

携帯電話・PHSからは　0426-42-7499

FAX　**0426-42-7486**

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　9:30〜21:00
土、日、祝日　10:00〜18:00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

● 修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

TEL: 0266-26-0330　FAX: 0266-26-2011

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮　3-15-1　オリンパス岡谷修理センター

営業時間9:00〜17:00（日曜、夏期・年末年始休業、システムメンテナンス日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)3403
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央１の13の4　泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6995
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

※ 土・日曜、祝日および夏期休業、年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

VT774701